

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-1

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	03	02	01
細事業名		茶の極み塾支援事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	蒲田 真好

PLAN				
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策)	I 交流経済都市		
	計画項目 (施策)	② 農林業の振興		
	施策方針	1-1 担い手対策の推進	1-4 国営開発営農の振興	1-6 特産品とブランド化の推進
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか)	茶業の担い手に対し、一般的な茶園管理からさらに踏み出して、製茶技術や先進的栽培技術の習得を支援する。	平成26年度事業の効果目標	(平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)
				茶園面積の拡大と生産者の技術習得を図る。 将来の生産面積100ha(H23年度50ha)

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 茶の生産者等が、製茶技術の修得のため、先進地の和東町に出向き製茶技術の研修を行った。茶の極み塾の運営に係る負担金
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 平成22年に稼働する製茶工場の稼働に向けた事前研修として、生産農家等の技術の習得が図れた。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
	19	1,000	国庫支出金		
			府支出金		
			起債		
			分担金・負担金		
			その他		
			一般財源		1,000
事業費合計		1,000	合計		1,000

CHECK		
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか	
	○ 進捗している(できている)	理由 極み塾の茶生産者の育成と製茶技術の習得に関する研修を実施した。
	▲ 少し遅れている(少しできていない)	
	× 遅れている(できていない)	
効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか		
○ 削減の余地がなかった	理由 本事業の経費は、府及び茶業団体との協議により計上し活動しているため、削減の余地がない。	
▲ 少し削減の余地があった		
× 削減の余地があった		

ACTION		
改善	事業内容の方向性	
	A 現状維持	理由 引き続き、茶生産者の育成と製茶技術の習得に関する研修を行う。
	B 内容の見直し	
	C 統廃合・休止・終了	
	事業規模の方向性	
	B 現状維持	理由 引き続き、茶生産者の育成と製茶技術の習得に関する研修を行う。
A 事業拡大		
C 事業縮小		

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-2

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	03	02	02
細事業名		優良茶園振興事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	蒲田 真好

PLAN			
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策)	I 交流経済都市	
	計画項目 (施策)	② 農林業の振興	
	施策方針	1-1 担い手対策の推進	1-4 国営開発営農の振興
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか)	国営開発農地の有効活用を図るため、基幹作物としてお茶の栽培面積の拡大と振興を図り、茶産地づくりを推進する。	平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)
		1-6 特産品とブランド化の推進	生産者の初期投資を軽減することにより、安定した経営の維持を図る。 将来の生産面積100ha(H23年度50ha)に向けた生産拡大。 茶栽培農家の増加と生産規模の拡大。

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 茶園面積の拡大と乗用型摘採機等の購入に対する補助を行った。 3団体4件への補助 総事業費23,012千円 補助額11,503千円(府4/10、市1/10) ※団体ごとに補助額の端数を切捨てしている。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 茶園が45haから47haに拡大した。 茶の収穫期を前に、生育に併せた機械設備の導入が図れた。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入	
	節	金額(千円)	項目	名称 金額(千円)
	19	11,503	国庫支出金	
			府支出金	茶業振興対策補助金 9,203
			起債	
			分担金・負担金	
			その他	
			一般財源	2,300
事業費合計		11,503	合計	11,503

CHECK			
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか	理由	当面の目標である茶園面積50haに向けて拡大が図れた。
	○ 進捗している(できている)		
	○ ▲ 少し遅れている(少しできていない)		
	○ × 遅れている(できていない)		
	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか	理由	茶園拡大に必要な機械・資材の導入であり、導入に当たっては、コスト削減に努めており、削減の余地はなかった
	○ 削減の余地がなかった		
	○ ▲ 少し削減の余地があった		
	○ × 削減の余地があった		

ACTION				
改善	事業内容の方向性			
	A	A 現状維持	理由 現在の茶生産者以外に新規の生産者の確保を図る。	
		B 内容の見直し		
		C 統廃合・休止・終了		
		事業規模の方向性		
	B	A 事業拡大	理由 現在の茶生産者以外に新規の生産者の確保を図る。	
	B 現状維持			
	C 事業縮小			

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-3

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	03	02	03
細事業名		製茶施設整備事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	蒲田 真好

PLAN				
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策)	I 交流経済都市		
	計画項目 (施策)	② 農林業の振興		
	施策方針	1-1 担い手対策の推進	1-4 国営開発営農の振興	1-6 特産品とブランド化の推進
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか)	国営開発農地の有効活用を図るため、基幹作物としてお茶の栽培面積の拡大と振興を図ってきたが、平成22年度からの本格的な茶葉の収穫期を迎え、京丹後製茶株式会社が設置する製茶工場の建設費用の一部を支援する。	平成26年度事業の効果目標	(平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)
				平成21年度建設の製茶工場は、25ha規模である。 25haの茶園の生葉の加工処理が行われ、上質の荒茶が生産・出荷される。 現在、47haまで茶園面積が拡大しており、平成25年度には施設の拡充が必要。

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 京丹後製茶株式会社が建設した製茶施設に対し、補助を行った。 農産物処理加工施設(補助対象事業費419,678千円 補助額241,821千円) 製茶工場1棟1127.5㎡ 製茶機械一式(煎茶ライン1基、てん茶ライン2基) ※消費税前の事業費に対し、国50/100、府4/100、市約6.6/100段階補正)
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 平成22年産からの荒茶加工施設が完成したことにより、品質の高い荒茶の加工・出荷体制が構築できた。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
	19	241,821	国庫支出金	強い農業づくり補助金	199,847
			府支出金	強い農業づくり補助金	15,987
			起債		
			分担金・負担金		
			その他		
			一般財源		25,987
事業費合計		241,821	合計		241,821

CHECK					
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">製茶工場の完成により、平成22年産の荒茶の生産加工体制が構築できた。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	製茶工場の完成により、平成22年産の荒茶の生産加工体制が構築できた。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由	製茶工場の完成により、平成22年産の荒茶の生産加工体制が構築できた。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)					
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">京丹後製茶(株)は、建物の建設及び製茶機械の購入設置で、競争入札を行うなど事業費の削減に努めた。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	京丹後製茶(株)は、建物の建設及び製茶機械の購入設置で、競争入札を行うなど事業費の削減に努めた。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	京丹後製茶(株)は、建物の建設及び製茶機械の購入設置で、競争入札を行うなど事業費の削減に努めた。			
▲ 少し削減の余地があった					
× 削減の余地があった					

ACTION			
改善	事業内容の方向性		
	A 現状維持	理由	茶の生産量に沿った設備計画により、数年後には、増設計画を実行に移す必要がある。
	B 内容の見直し		
	C 統廃合・休止・終了		
	事業規模の方向性		
	A 事業拡大	理由	平成25年度施設拡充予定。
B 現状維持			
C 事業縮小			

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-4

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	03	05	01
細事業名		利子補給助成事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	谷口 あゆみ

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-1 担い手対策の推進
事業の目的	<p>(どのような目的で事業を実施するか) 安定的な農業経営を行うため、設備投資・事業拡大を目的に農業経営基盤強化資金(スーパーL資金)を借り入れた認定農業者及び、平成16年台風23号による農業災害の復旧を目的に農業経営維持安定資金を借り入れた事業者に対して利子助成を行うことを目的とする。</p> <p>平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)</p> <p>利子補給により、対象農家の農業経営基盤の強化・安定を図る。</p>

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 農業経営基盤強化資金借入農業者を対象に、(財)農林水産長期金融協会、都道府県、市により利子助成を行った。 また、平成16年10月20日の台風23号によって被害を受けた農業者の農業経営の安定を図るため農業経営維持安定資金を借り入れた農業者に対して府1/2、市1/2の割合で利子補給をした。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 農業経営基盤強化資金利子補給金として399千円、農業災害利子補給金として25千円を助成した。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入	
	節	金額(千円)	項目	名称 金額(千円)
	19	424	国庫支出金	
			府支出金	農業費補助金 212
			起債	
			分担金・負担金	
			その他	
			一般財源	212
事業費合計		424	合計	424

CHECK	
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか
	<p>○ 進捗している(できている)</p> <p>○ ▲ 少し遅れている(少しできていない) 理由 無利子での新規借入が1件あり、また対象者(26件)への利子補給をもらえなく行うことができた。</p> <p>× 遅れている(できていない)</p>
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか
	<p>○ 削減の余地がなかった</p> <p>○ ▲ 少し削減の余地があった 理由 国・府・市の要綱に定められている金額である。</p> <p>× 削減の余地があった</p>

ACTION	
改善	事業内容の方向性
	<p>C A 現状維持 理由 農業経営基盤強化資金利子補給は廃止となる。ただし平成22年度については貸付当初5年間の金利負担軽減措置を行う。</p> <p>B 内容の見直し 理由 農業災害資金利子補給は、平成22年度で農業経営維持安定資金の償還の終了に伴って終了予定。</p> <p>C 統廃合・休止・終了</p>
改善	事業規模の方向性
	<p>C A 事業拡大 理由 農業経営基盤強化資金利子補給は廃止となる。ただし平成22年度については貸付当初5年間の金利負担軽減措置を行う。</p> <p>B 現状維持 理由 農業災害資金利子補給は平成22年度で農業経営維持安定資金の償還の終了に伴って終了予定。</p> <p>C 事業縮小</p>

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-5

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	04	01	01
細事業名		農業技術者協議会活動促進事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	松本 優

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-1 担い手対策の推進 1-6 特産品とブランド化の推進
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 認定農業者・集落営農等の担い手の育成及び農用地の利用集積の推進により、市内全体の農業振興を図る。 事業の目的 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 認定農業者・集落営農等の担い手の育成及び農用地の利用集積のさらなる推進により、市内全体の農業振興を図る。

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 認定農業者の審査機関としての機能をもった農業技術者協議会において総合的かつ具体的な農業経営基盤強化の推進方策の検討を行った。また、農業経営改善計画の認定を受けた農業者若しくは組織経営体或いは今後認定を受けようとする農業者、生産組織等を対象に、経営診断の実施、先進的技術の導入等を含む生産方式や経営管理の合理化等の経営改善方策の提示や指導を行った。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 農業経営改善に関する相談活動日数(延) 72日、対象人数(延) 108人 (新規営農相談11件、経営改善計画作成相談37人、法人設立相談4件、)

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
	1	1,800	国庫支出金		
	4	257	府支出金		
	9	113	起債		
	19	3,000	分担金・負担金		
			その他	農業技術者協議会委	2,168
			一般財源		3,002
事業費合計		5,170	合計		5,170

CHECK					
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">認定農業者・集落営農等の担い手育成のため、経営相談、経営改善計画の作成指導を行う農業経営改善支援センターを設置し、経営基盤強化の促進に資する活動を行った。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	認定農業者・集落営農等の担い手育成のため、経営相談、経営改善計画の作成指導を行う農業経営改善支援センターを設置し、経営基盤強化の促進に資する活動を行った。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由	認定農業者・集落営農等の担い手育成のため、経営相談、経営改善計画の作成指導を行う農業経営改善支援センターを設置し、経営基盤強化の促進に資する活動を行った。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)					
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">本事業の経費は事務局の嘱託職員や農業経営改善支援センターの設置に伴う人件費が大半であり、事務局機能に充てられている。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	本事業の経費は事務局の嘱託職員や農業経営改善支援センターの設置に伴う人件費が大半であり、事務局機能に充てられている。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	本事業の経費は事務局の嘱託職員や農業経営改善支援センターの設置に伴う人件費が大半であり、事務局機能に充てられている。			
▲ 少し削減の余地があった					
× 削減の余地があった					

ACTION								
改善	事業内容の方向性							
	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 現状維持</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">引き続き、認定農業者・集落営農等の担い手育成のため、経営相談、経営改善計画の作成指導を行う農業経営改善支援センターを設置し、経営基盤強化の促進に資する活動を行う。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 内容の見直し</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 統廃合・休止・終了</td> </tr> </table>	A	A 現状維持	理由	引き続き、認定農業者・集落営農等の担い手育成のため、経営相談、経営改善計画の作成指導を行う農業経営改善支援センターを設置し、経営基盤強化の促進に資する活動を行う。		B 内容の見直し	
A	A 現状維持	理由	引き続き、認定農業者・集落営農等の担い手育成のため、経営相談、経営改善計画の作成指導を行う農業経営改善支援センターを設置し、経営基盤強化の促進に資する活動を行う。					
	B 内容の見直し							
	C 統廃合・休止・終了							
改善	事業規模の方向性							
	<table border="1"> <tr> <td>B</td> <td>A 事業拡大</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">引き続き、認定農業者・集落営農等の担い手育成のため、経営層、経営改善計画の作成指導を行う農業経営改善支援センターを設置し、経営基盤強化の促進に資する活動を行う。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 現状維持</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 事業縮小</td> </tr> </table>	B	A 事業拡大	理由	引き続き、認定農業者・集落営農等の担い手育成のため、経営層、経営改善計画の作成指導を行う農業経営改善支援センターを設置し、経営基盤強化の促進に資する活動を行う。		B 現状維持	
B	A 事業拡大	理由	引き続き、認定農業者・集落営農等の担い手育成のため、経営層、経営改善計画の作成指導を行う農業経営改善支援センターを設置し、経営基盤強化の促進に資する活動を行う。					
	B 現状維持							
	C 事業縮小							

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-6

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	04	03	02
細事業名		担い手活用農地バンクシステム整備事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	西村 隆

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-1 担い手対策の推進
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 担い手農業者や農作業受託組織に農地の利用集積をすすめ、地域農業をリードする経営体の育成を図る。 1-4 国営開発営農の振興 担い手への農地集積の割合を高める。 平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 農地の面的集積に取組んだ市農業技術者協議会に補助金を交付した。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 2地区において、約29haの農地を担い手農家に集積した。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
事業費合計	19	4,431	国庫支出金		
			府支出金		
			起債		
			分担金・負担金		
			その他	担い手活用農地バン	3,375
			一般財源		1,056
事業費合計		4,431	合計		4,431

CHECK					
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">本市においては、国営開発農地を中心に担い手農家への集積を進めている。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	本市においては、国営開発農地を中心に担い手農家への集積を進めている。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由	本市においては、国営開発農地を中心に担い手農家への集積を進めている。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)					
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">補助金交付要綱にそって、集積した農地面積に応じて補助金を支出している。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	補助金交付要綱にそって、集積した農地面積に応じて補助金を支出している。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	補助金交付要綱にそって、集積した農地面積に応じて補助金を支出している。			
▲ 少し削減の余地があった					
× 削減の余地があった					

ACTION			
改善	事業内容の方向性		
	A 現状維持	理由	担い手農業者や農作業受託組織に農地の利用集積をすすめ、地域農業をリードする経営体の育成を図るため制度の維持が必要である。
	B 内容の見直し		
	C 統廃合・休止・終了		
	事業規模の方向性		
	B 現状維持	理由	担い手農業者や農作業受託組織に農地の利用集積をすすめ、地域農業をリードする経営体の育成と多様な担い手の連携による地域農業の仕組みづくりを推進する。
A 事業拡大			
C 事業縮小			

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-7

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	04	03	03
細事業名		新規就農等拡大のための遊休農地利活用推進事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	西村 隆

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-1 担い手対策の推進 1-4 国営開発営農の振興
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 京都府農業開発公社が行う農地保有合理化事業等を推進し、担い手への農地の利用集積をすすめる。 事業の目的 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 担い手への農地集積の割合を高める。

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 京都府農業開発公社から受託した業務に係る経費(事務費)を執行した。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 京都府農業開発公社が行う農地保有合理化事業を活用し、担い手への農地の利用集積を行うことができた。 (農地について、買入3件、売渡1件、借入61件、貸付8件)

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
事業費合計	11	58	国庫支出金		
	12	76	府支出金		
			起債		
			分担金・負担金		
			その他	農地保有合理化促進	134
			一般財源		0
事業費合計		134	合計		134

CHECK				
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか			
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由 国営開発農地においては、京都府農業開発公社の農地保有合理化事業を活用して農地の利用を行ってきた。所有権と利用権の分離により担い手への集積が進んでいる。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由 国営開発農地においては、京都府農業開発公社の農地保有合理化事業を活用して農地の利用を行ってきた。所有権と利用権の分離により担い手への集積が進んでいる。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由 国営開発農地においては、京都府農業開発公社の農地保有合理化事業を活用して農地の利用を行ってきた。所有権と利用権の分離により担い手への集積が進んでいる。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)				
× 遅れている(できていない)				
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか			
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由 事業費については、受託した業務における実績に応じて決まるため。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由 事業費については、受託した業務における実績に応じて決まるため。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由 事業費については、受託した業務における実績に応じて決まるため。			
▲ 少し削減の余地があった				
× 削減の余地があった				

ACTION		
改善	事業内容の方向性	
	A 現状維持	理由 国営開発農地において、京都府農業開発公社の農地保有合理化事業を活用して農地の利用を行ってきた。所有権と利用権の分離により担い手への集積が進んでおり、これからも引き続き取り組んでいく。
	B 内容の見直し	
	C 統廃合・休止・終了	
	事業規模の方向性	
	B 現状維持	理由 国営開発農地において、京都府農業開発公社の農地保有合理化事業を活用して農地の利用を行ってきた。所有権と利用権の分離により担い手への集積が進んでおり、これからも引き続き取り組んでいく。
A 事業拡大		
C 事業縮小		

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-8

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	04	04	01
細事業名		農業団体等育成強化事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	岩崎 浩一

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-1 担い手対策の推進
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 地域農業の発展と農家の経営合理化を推進するため農業団体等の育成強化を図る。 事業の目的 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 農業団体等の経営の合理化と生産性の向上により経営の安定を図る。

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 地域農業の発展と経営合理化に寄与する事業を実施する農業団体等に対して予算の範囲で支援を行った。 ・丹後米を使用した都市農村交流事業実施事業 事業費169,000円(補助率2分の1 84,000円) ・果樹(桃、梨)の農業使用低減による安心な作物づくりを目指す事業 事業費574,445円(補助率2分の1もしくは20万円以下 200,000円) ・集落営農に取り組む組織の規模拡大に対する機械導入事業 事業費2,618,175円(補助率2分の1もしくは50万円以下 500,000円)
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 3団体に対し784千円の助成を行い、農家の設備投資の抑制と農業団体の育成強化を図った。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
	19	784	国庫支出金		
			府支出金		
			起債		
			分担金・負担金		
			その他		
			一般財源		784
事業費合計		784	合計		784

CHECK				
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか			
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由 国、府の助成事業が削減される中で、市の農業の現状に沿ったなくてはならない事業である。現在までに30件の事業に対して支援を行った。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由 国、府の助成事業が削減される中で、市の農業の現状に沿ったなくてはならない事業である。現在までに30件の事業に対して支援を行った。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由 国、府の助成事業が削減される中で、市の農業の現状に沿ったなくてはならない事業である。現在までに30件の事業に対して支援を行った。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)				
× 遅れている(できていない)				
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか			
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由 農業団体の機械導入に欠かせない制度であり、必要最低限の予算の中で調整しながら予算執行を行っている。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由 農業団体の機械導入に欠かせない制度であり、必要最低限の予算の中で調整しながら予算執行を行っている。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由 農業団体の機械導入に欠かせない制度であり、必要最低限の予算の中で調整しながら予算執行を行っている。			
▲ 少し削減の余地があった				
× 削減の余地があった				

ACTION							
改善	事業内容の方向性						
	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 現状維持</td> <td rowspan="3">理由 農家の高齢化が進む中で、組織化の推進が望まれる。今後もその動きを支えるため継続が必要である。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 内容の見直し</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 統廃合・休止・終了</td> </tr> </table>	A	A 現状維持	理由 農家の高齢化が進む中で、組織化の推進が望まれる。今後もその動きを支えるため継続が必要である。		B 内容の見直し	
A	A 現状維持	理由 農家の高齢化が進む中で、組織化の推進が望まれる。今後もその動きを支えるため継続が必要である。					
	B 内容の見直し						
	C 統廃合・休止・終了						
改善	事業規模の方向性						
	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 事業拡大</td> <td rowspan="3">理由 国、府からの補助事業が削減される中で、本市農業の実情に沿った当事業の意義は大きい。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 現状維持</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 事業縮小</td> </tr> </table>	A	A 事業拡大	理由 国、府からの補助事業が削減される中で、本市農業の実情に沿った当事業の意義は大きい。		B 現状維持	
A	A 事業拡大	理由 国、府からの補助事業が削減される中で、本市農業の実情に沿った当事業の意義は大きい。					
	B 現状維持						
	C 事業縮小						

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-9

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	04	05	01
細事業名		認定農業者対策事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	岩崎 浩一

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-1 担い手対策の推進
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 本市の農業を基幹的に担う認定農業者の育成、支援のため、本市の農業に即した機械施設の導入に対して助成を行い、担い手農家の経営安定を図ることにより農業・農村の振興発展に寄与する。 事業の目的 (平成26年度までの、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 現在の認定農家・団体数が153となっており、希望する農家が助成制度を利用できるよう継続し、認定農業者を中心とした農業の振興を図る。

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 本市では、農業経営基盤促進法に基づいて、農業経営改善計画の認定を受けた法認定農業者を地域農業の中核として位置付け、地域農業の安定的な継続と集落の維持に大きく寄与するハード事業に対して、補助金交付要綱の定めるところにより支援を行った。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 21年度は9件 2,512千円分を助成。地域の担い手農家・団体への支援ができた。上記の支援により、認定農業者の経営規模の拡大、生産の効率化、経営の合理化が図られた。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
	19	2,612	国庫支出金		
			府支出金		
			起債		
			分担金・負担金		
			その他		
			一般財源		2,612
事業費合計		2,612	合計		2,612

CHECK					
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">利用者が50名を越え、認定農業者の経営規模拡大と経営の安定に寄与している。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	利用者が50名を越え、認定農業者の経営規模拡大と経営の安定に寄与している。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由	利用者が50名を越え、認定農業者の経営規模拡大と経営の安定に寄与している。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)					
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">農家が希望する補助金額の8割の補助にとどまっており削減の余地は無い。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	農家が希望する補助金額の8割の補助にとどまっており削減の余地は無い。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	農家が希望する補助金額の8割の補助にとどまっており削減の余地は無い。			
▲ 少し削減の余地があった					
× 削減の余地があった					

ACTION								
改善	事業内容の方向性							
	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 現状維持</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">地域の高齢化や遊休農地の増加に対応する為にも、認定農家への支援については今後も進めていく必要がある。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 内容の見直し</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 統廃合・休止・終了</td> </tr> </table>	A	A 現状維持	理由	地域の高齢化や遊休農地の増加に対応する為にも、認定農家への支援については今後も進めていく必要がある。		B 内容の見直し	
A	A 現状維持	理由	地域の高齢化や遊休農地の増加に対応する為にも、認定農家への支援については今後も進めていく必要がある。					
	B 内容の見直し							
	C 統廃合・休止・終了							
改善	事業規模の方向性							
	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 事業拡大</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">制度の利用希望も多く、担い手農家の育成のために、今後も拡大継続が必要である。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 現状維持</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 事業縮小</td> </tr> </table>	A	A 事業拡大	理由	制度の利用希望も多く、担い手農家の育成のために、今後も拡大継続が必要である。		B 現状維持	
A	A 事業拡大	理由	制度の利用希望も多く、担い手農家の育成のために、今後も拡大継続が必要である。					
	B 現状維持							
	C 事業縮小							

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-10

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	04	06	01
細事業名		農業法人誘致対策事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	岩崎 浩一

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-1 担い手対策の推進 1-4 国営開発営農の振興
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 本市における国営開発農地を中心とした農地の有効活用を促進する。 事業の目的 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 誘致した農業生産法人の経営の安定による定着を図る。

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 本市が誘致した農業法人の機械リースに対する支援を行った。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 誘致した法人による農地の継続利用によりと地域農業の振興を行った。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
	14	508	国庫支出金		
			府支出金		
			起債		
			分担金・負担金		
			その他		
			一般財源		508
事業費合計		508	合計		508

CHECK					
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">農用地利用について、一定の規模が継続使用され、耕作放棄地の防止と地域農業の振興に寄与している。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	農用地利用について、一定の規模が継続使用され、耕作放棄地の防止と地域農業の振興に寄与している。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由	農用地利用について、一定の規模が継続使用され、耕作放棄地の防止と地域農業の振興に寄与している。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)					
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">制度に則ったリース契約に基づくものであり削減の余地は無かった。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	制度に則ったリース契約に基づくものであり削減の余地は無かった。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	制度に則ったリース契約に基づくものであり削減の余地は無かった。			
▲ 少し削減の余地があった					
× 削減の余地があった					

ACTION								
改善	事業内容の方向性							
	<table border="1"> <tr> <td>C</td> <td>A 現状維持</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">平成18～22年の5年間の助成のため。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 内容の見直し</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 統廃合・休止・終了</td> </tr> </table>	C	A 現状維持	理由	平成18～22年の5年間の助成のため。		B 内容の見直し	
C	A 現状維持	理由	平成18～22年の5年間の助成のため。					
	B 内容の見直し							
	C 統廃合・休止・終了							
改善	事業規模の方向性							
	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>A 事業拡大</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 現状維持</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 事業縮小</td> </tr> </table>		A 事業拡大	理由			B 現状維持	
	A 事業拡大	理由						
	B 現状維持							
	C 事業縮小							

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-11

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	04	07	02
細事業名		就農研修資金償還金助成事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	吉岡 祐樹

<b>PLAN</b>	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-1 担い手対策の推進
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 京都府就農研修資金を借り受け就農研修を行った後、条件不利地域に就農する者に対し、研修資金の償還に対する助成を行うことにより、条件不利地域における新規就農者の確保・育成を図る。 事業の目的 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 制度を利用した新規就農者の農業経営と生活の安定を図り、地域農業の担い手としての活躍を期待する。

<b>DO</b>	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 条件不利地に新規就農する者で就農後5年間以上の営農継続を条件に、資金借入れ総額の3分の2以内を助成(平成17年3月31日以前の事業適用分は全額助成)。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 新規就農直後の不安定期における新規就農者の収入確保・安定を図り、営農技術の向上や営農方針・経営計画を立てる。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入	
	節	金額(千円)	項目	金額(千円)
	19	5,878	国庫支出金	
			府支出金	2,939
			起債	
			分担金・負担金	
			その他	
			一般財源	2,939
事業費合計		5,878	合計	5,878

<b>CHECK</b>		
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか	
	○ 進捗している(できている)	理由 9名の償還助成が実施できた。
	○ ▲ 少し遅れている(少しできていない)	
	○ × 遅れている(できていない)	
効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか		
○ 削減の余地がなかった	理由 対象者が明確であり、必要に応じて予算化している。また、助成対象者に離農者もなく、計画通り事業を実施しており、削減の余地はなかった。	
○ ▲ 少し削減の余地があった		
○ × 削減の余地があった		

<b>ACTION</b>		
改善	事業内容の方向性	
	A A 現状維持	理由 府の制度を活用したものであり、改善の余地はない。
	B B 内容の見直し	
	C C 統廃合・休止・終了	
	事業規模の方向性	
	B A 事業拡大	理由 対象者が限られている。
B B 現状維持		
C C 事業縮小		

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-12

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	04	11	02
細事業名		農産物集出荷貯蔵施設等整備支援事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	岩崎 浩一

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-1 担い手対策の推進
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 市外から誘致した農業法人が設置する生産機械・集出荷貯蔵施設に必要な資金の一部を助成することにより、国営開発農地の有効活用と地域雇用、委託生産などの波及効果を目指す。 事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 誘致した農業法人の経営の安定による定着を図る。

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 機械・設備の導入、整備への助成を行なった。 《内訳》 野菜集出荷貯蔵施設付帯設備整、農業機械、パイプハウス
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 玉葱、人参用機械施設については、22年度出荷分の生産性向上に寄与した。 ハウスについても計画どおりに増棟したことにより、生産数量の増加が図られた。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入			
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)	
事業費合計	11	72	国庫支出金	経営構造対策事業補	28,619	
	12	30	府支出金	経営構造対策事業補	2,328	
	19	37,025	起債			
			分担金・負担金			
			その他			
			一般財源		6,180	
			合計		37,127	
	事業費合計		37,127	合計		37,127

CHECK		
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか	理由 一昨年に完成した施設と併せて、生産出荷作業が本格化しており順調に進捗している。
	○ 進捗している(できている)	
	▲ 少し遅れている(少しできていない)	
	× 遅れている(できていない)	
効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか	理由 事業主体は、経営安定を早期に実現するためコスト削減に努めており、経費の削減を大いに進めた。	
○ 削減の余地がなかった		
▲ 少し削減の余地があった		
× 削減の余地があった		

ACTION		
改善	事業内容の方向性	
	A 現状維持	理由 当初から3か年の予定による施設整備である。
	C B 内容の見直し	
	C 統廃合・休止・終了	
	事業規模の方向性	
	A 事業拡大	理由
B 現状維持		
C 事業縮小		

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-13

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	03	10	01
細事業名		京のがんばる農家緊急支援事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	吉岡 祐樹

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-2 水田農業の振興と米の直販体制の確立 1-6 特産品とブランド化の推進
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 農業生産コストの増加や米価等の下落による生産農家の経営圧迫に対し、緊急に経営支援を行い、農家所得の確保を図る。 事業の目的 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)
事業の目的	平成26年度事業の効果目標

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 3戸以上の農家で組織される農業者組織、農業生産法人等、市内6団体に対し、農業生産コストの増加や米価下落による生産農家の経営圧迫を緩和すべく、遮光資材、省エネ型乾燥機導入、リサイクルハウス移設について、経費の一部を助成した。補助率(遮光資材・リサイクルハウス/府+市: 60%、乾燥機/府1/3・市1/10)
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 導入経費の一部を支援することで、農業生産コストの低減、農作業の負担が軽減されるなど経営改善に取り組めた。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入	
	節	金額(千円)	項目	金額(千円)
	19	8,831	国庫支出金	
			府支出金	京のがんばる農家緊急支援事業 7,296
			起債	
			分担金・負担金	
			その他	
			一般財源	1,535
事業費合計		8,831	合計	8,831

CHECK					
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">経費の一部を支援することで、生産資材の共同購入、省エネ機械の導入、リサイクルハウス移設等で生産コストの低減に取り組めた。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	経費の一部を支援することで、生産資材の共同購入、省エネ機械の導入、リサイクルハウス移設等で生産コストの低減に取り組めた。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由	経費の一部を支援することで、生産資材の共同購入、省エネ機械の導入、リサイクルハウス移設等で生産コストの低減に取り組めた。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)					
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">現在の農業経営を継続・発展させるために必要な機械・資材の導入であり、削減の余地はなかった。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	現在の農業経営を継続・発展させるために必要な機械・資材の導入であり、削減の余地はなかった。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	現在の農業経営を継続・発展させるために必要な機械・資材の導入であり、削減の余地はなかった。			
▲ 少し削減の余地があった					
× 削減の余地があった					

ACTION			
改善	事業内容の方向性		
	A 現状維持	理由	平成21年度をもって終了
	C B 内容の見直し		
	C 統廃合・休止・終了		
	事業規模の方向性		
	A 事業拡大	理由	
B 現状維持			
C 事業縮小			

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-14

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	04	09	01
細事業名		農業・農村活性化経営体づくり事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	吉岡 祐樹

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-2 水田農業の振興と米の直販体制の確立
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 集落営農組織を設立して担い手不足の解消を図り、営農体制を強化することにより、耕作放棄地の増加を食い止め、地域資源の発掘や人材の活用により、農業・農村の活性化を図る。 事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 水田農業の担い手不足を解消のため集落営農組織を設立し、米の直販体制を整備する。

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 経営体づくりに取り組む延利農業農村活性化委員会に対して、補助金を交付した。補助率(府1/2以内、ただしアドバイザー契約に係る費用の補助率は定額)
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 集落営農組織設立に向けた小委員会が設置され、具体的な話し合いができた。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
事業費合計	9	1	国庫支出金		
	19	385	府支出金	地域課題ふるさと推進	385
			起債		
			分担金・負担金		
			その他		
			一般財源		1
	事業費合計		386	合計	

CHECK							
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか						
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">経営体としての集落営農組織化までは進んでいないが、専門の小委員会を設置し、組織づくりに向けた具体的な話し合いができた。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	経営体としての集落営農組織化までは進んでいないが、専門の小委員会を設置し、組織づくりに向けた具体的な話し合いができた。	▲ 少し遅れている(少しできていない)	× 遅れている(できていない)	
	○ 進捗している(できている)	理由			経営体としての集落営農組織化までは進んでいないが、専門の小委員会を設置し、組織づくりに向けた具体的な話し合いができた。		
	▲ 少し遅れている(少しできていない)						
× 遅れている(できていない)							
効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか							
<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">先進地での研修やアドバイザー活用等の支出項目の全ては、事業推進に必要であり、削減の余地はなかった。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	先進地での研修やアドバイザー活用等の支出項目の全ては、事業推進に必要であり、削減の余地はなかった。	▲ 少し削減の余地があった	× 削減の余地があった		
○ 削減の余地がなかった	理由			先進地での研修やアドバイザー活用等の支出項目の全ては、事業推進に必要であり、削減の余地はなかった。			
▲ 少し削減の余地があった							
× 削減の余地があった							

ACTION			
改善	事業内容の方向性		
	A 現状維持	理由	平成21年度をもって事業終了。
	C B 内容の見直し		
	C 統廃合・休止・終了		
	事業規模の方向性		
	A 事業拡大	理由	
B 現状維持			
C 事業縮小			

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-15

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	05	01	01
細事業名		水田農業振興推進事業(京の稲作)				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	吉岡 祐樹

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-2 水田農業の振興と米の直販体制の確立
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 地域農業を支える担い手として、農作業受託組織の役割が一層期待される中、組織等の経営強化を図る必要があり、農作業受託組織等が経営安定所得対策(当時は品目横断的経営安定対策)の対象となるよう、規模拡大や経営強化に向けた取り組みを支援する。 事業の目的 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 機械の導入により、コスト削減と経営の効率化が図られ農家所得の向上を図る。

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 取り組み要件を満たす、農作業受託をしている任意組織又は農業法人(3戸以上で構成されているもの)等、市内4団体を対象に、規模拡大計画に対応できる農業用機械導入経費の一部を助成した。補助率(府+市:50%)
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 機械の導入により、地域農業の担い手の経営強化が図られた。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入	
	節	金額(千円)	項目	名称 金額(千円)
	19	12,733	国庫支出金	
			府支出金	京の稲作担い手緊急 8,487
			起債	
			分担金・負担金	
			その他	
			一般財源	4,246
事業費合計		12,733	合計	12,733

CHECK					
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">規模拡大計画に対応できる機械の導入が行なわれ、規模拡大に向けた体制整備を構築した。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	規模拡大計画に対応できる機械の導入が行なわれ、規模拡大に向けた体制整備を構築した。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由	規模拡大計画に対応できる機械の導入が行なわれ、規模拡大に向けた体制整備を構築した。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)					
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">計画目標達成に必要な機械選定であり、削減の余地はなかった。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	計画目標達成に必要な機械選定であり、削減の余地はなかった。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	計画目標達成に必要な機械選定であり、削減の余地はなかった。			
▲ 少し削減の余地があった					
× 削減の余地があった					

ACTION					
改善	事業内容の方向性				
	<table border="1"> <tr> <td>A 現状維持</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">平成21年度をもって終了。</td> </tr> <tr> <td>C B 内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>C 統廃合・休止・終了</td> </tr> </table>	A 現状維持	理由	平成21年度をもって終了。	C B 内容の見直し
A 現状維持	理由	平成21年度をもって終了。			
C B 内容の見直し					
C 統廃合・休止・終了					
改善	事業規模の方向性				
	<table border="1"> <tr> <td>A 事業拡大</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>B 現状維持</td> </tr> <tr> <td>C 事業縮小</td> </tr> </table>	A 事業拡大	理由		B 現状維持
A 事業拡大	理由				
B 現状維持					
C 事業縮小					

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-16

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	05	01	01
細事業名		水田農業振興推進事業(特栽米)				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	松尾 浩希

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-2 水田農業の振興と米の直販体制の確立
事業の目的	<p>(どのような目的で事業を実施するか) 品質の高い特別栽培米等、「売れる米作り」を推進し、府内で最大規模の良質な黒大豆、小豆、京野菜等を中心に水田農業の振興を図り、産地形成を図る。</p> <p>平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 特別栽培米の標準化及び特産作物の生産拡大。特A米産地の継続。</p>

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 「丹後産コシヒカリ」の米づくりと生産調整を推進し、特産作物(黒大豆、小豆、京野菜等)の産地化を図り水田農業を推進した。特別栽培米の団地化に取組んだ農家に対する助成金と、一等米比率の高い農家に対する助成金により、「特A米」産地の継続に向けて「丹後産コシヒカリ」の米づくりを支援した。また、生産調整の推進により価格維持と安定性のある水田農業を推進した。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 「丹後産コシヒカリ」については、(財)日本穀物検定協会の検定で3年連続の特A評価を獲得した。生産調整も達成し、同時に特産地化も推進できた。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
財源内訳	7	625	国庫支出金		
	9	9	府支出金	京の水田農業総合対	1,070
	11	295	起債		
	12	40	分担金・負担金		
	14	99	その他		
	19	27,073	一般財源		27,071
事業費合計		28,141	合計		28,141

CHECK	
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか
	<p>○ 進捗している(できている)</p> <p>○ ▲ 少し遅れている(少しできていない)</p> <p>× 遅れている(できていない)</p> <p>理由 特別栽培米の団地化面積の拡大や、特産作物の助成品目作付面積の維持により、水田農業振興に対し大きな効果があった。</p>
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか
	<p>○ 削減の余地がなかった</p> <p>○ ▲ 少し削減の余地があった</p> <p>× 削減の余地があった</p> <p>理由 特別栽培米の団地化面積の拡大や、特産作物の助成品目作付面積の維持等、継続的に水田農業振興に取り組むには削減の余地はなかった。</p>

ACTION	
改善	事業内容の方向性
	<p>A A 現状維持</p> <p>B B 内容の見直し</p> <p>C C 統廃合・休止・終了</p> <p>理由 本事業は国による水田農業の基本的な政策であり、本市の農業振興施策上、欠くことのできない重要な事業であるため。</p>
改善	事業規模の方向性
	<p>B A 事業拡大</p> <p>B B 現状維持</p> <p>C C 事業縮小</p> <p>理由 次年度に戸別所得補償モデル対策の見直しが予定されており、現状を維持しつつ新たな対策にも取り組めるようにする。</p>

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-17

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	05	01	01
細事業名		水田農業振興推進事業(トライアル農地)				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	大久保 貴教

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-2 水田農業の振興と米の直販体制の確立
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 丹後産コシヒカリのブランド力強化・品質向上を目指すとともに「安心・安全・美味しい」にこだわって作った有機栽培米を付加価値を付けて販売できる仕組みづくりを行う。 (平成21年度～平成23年度までの3ヶ年事業 トライアル農地「水稻有機栽培実証」)
事業の目的	平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)
事業の目的	平成21年度から平成23年度までの3ヶ年事業で、丹後産コシヒカリのブランド力強化・品質向上・安心安全美味しいにこだわって作った有機栽培米を付加価値を付けて販売できる仕組みづくりを行う。

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 京都吉兆徳岡総料理長に専門委員として参加していただき、平成21年度からトライアル農地「水稻有機栽培実証事業」に取り組んだ。1年目の栽培データの収集や収穫したお米の食味などを計り、安心・安全・美味しいお米を科学的に示す指標の検討と付加価値を付けて販売する戦略を模索した。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 水稻有機栽培実証事業による1年目の栽培結果により栽培データの蓄積ができた。また、さまざまな立場の方から意見を聞き、有機栽培米に付加価値をつけて販売できる仕組みを模索できた。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
予算科目	9	34	財源内訳	国庫支出金	
	11	68		府支出金	
	12	8		起債	
	13	185		分担金・負担金	
	14	14		その他	
	19	15			
事業費合計		324	一般財源		324
			合計		324

CHECK					
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">安心安全な有機栽培米に付加価値をつけて販売する方法が模索できている。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	安心安全な有機栽培米に付加価値をつけて販売する方法が模索できている。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由	安心安全な有機栽培米に付加価値をつけて販売する方法が模索できている。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)					
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">3ヶ年の事業で丹後産コシヒカリの品質向上・農家の所得向上を目指しているので必要最小限の費用で最大の効果の発現を目指して事業を行っている。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	3ヶ年の事業で丹後産コシヒカリの品質向上・農家の所得向上を目指しているので必要最小限の費用で最大の効果の発現を目指して事業を行っている。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	3ヶ年の事業で丹後産コシヒカリの品質向上・農家の所得向上を目指しているので必要最小限の費用で最大の効果の発現を目指して事業を行っている。			
▲ 少し削減の余地があった					
× 削減の余地があった					

ACTION								
改善	事業内容の方向性							
	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 現状維持</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">平成21年度から23年度までの3ヶ年で計画した事業をしっかりと行い、丹後産コシヒカリが高付加価値で売れる仕組みをつくる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 内容の見直し</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 統廃合・休止・終了</td> </tr> </table>	A	A 現状維持	理由	平成21年度から23年度までの3ヶ年で計画した事業をしっかりと行い、丹後産コシヒカリが高付加価値で売れる仕組みをつくる。		B 内容の見直し	
A	A 現状維持	理由	平成21年度から23年度までの3ヶ年で計画した事業をしっかりと行い、丹後産コシヒカリが高付加価値で売れる仕組みをつくる。					
	B 内容の見直し							
	C 統廃合・休止・終了							
改善	事業規模の方向性							
	<table border="1"> <tr> <td>C</td> <td>A 事業拡大</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">トライアル農地の3ヶ年事業終了後は、水稻有機栽培の組織化を図り、自立した仕組みづくりを行っていく。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 現状維持</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 事業縮小</td> </tr> </table>	C	A 事業拡大	理由	トライアル農地の3ヶ年事業終了後は、水稻有機栽培の組織化を図り、自立した仕組みづくりを行っていく。		B 現状維持	
C	A 事業拡大	理由	トライアル農地の3ヶ年事業終了後は、水稻有機栽培の組織化を図り、自立した仕組みづくりを行っていく。					
	B 現状維持							
	C 事業縮小							

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-18

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	05	02	01
細事業名		京のこめ産地づくり事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	吉岡 祐樹

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-2 水田農業の振興と米の直販体制の確立
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 丹後産コシヒカリの産地を確立するため、特別栽培米等の生産に必要な農業用機械等を導入する農業者団体、農業生産法人等に対して支援する。 事業の目的 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 側条施肥機付田植機の導入により、より安全な生産環境の構築と、作業効率向上が実現し、今後の生産面積拡大が期待できる。(目標合計:H21/21ha → H23/29ha)

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 地域営農組織、3戸以上の農家で組織される受託組織、農業生産法人等、市内3団体にに対し、農業用機械(田植機)導入経費の一部を助成した。補助率(府+市:50%)
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 側条施肥機付田植機の導入により、より安全な生産環境の構築と、作業効率向上が実現し、今後、特別栽培米の生産面積拡大が期待できる。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入	
	節	金額(千円)	項目	金額(千円)
	19	3,745	国庫支出金	
			府支出金	京のこめ産地づくり事 2,996
			起債	
			分担金・負担金	
			その他	
			一般財源	749
事業費合計		3,745	合計	3,745

CHECK			
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか	理由	農業機械の導入により、作業効率の向上、規模拡大と経営の合理化が図られ、産地全体の水稻の品質向上につながっている。
	○ 進捗している(できている)		
	▲ 少し遅れている(少しできていない)		
	× 遅れている(できていない)		
効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか			
○	○ 削減の余地がなかった	理由	計画目標達成に必要な機械選定であり、削減の余地はなかった。
	▲ 少し削減の余地があった		
	× 削減の余地があった		

ACTION				
改善	事業内容の方向性			
	B	A 現状維持 B 内容の見直し C 統廃合・休止・終了	理由	京の水田農業総合対策事業の別メニュー、京の黒大豆・小豆等産地づくり事業を予定している。
	事業規模の方向性			
	B	A 事業拡大 B 現状維持 C 事業縮小	理由	京の水田農業総合対策事業により特別栽培米、黒大豆等の産地づくりに向けた取り組みを継続する。

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-19

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	04	02	01
細事業名		中山間地域等直接支払制度事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	大久保 貴教

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-3 中山間地の保全対策の推進
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 農業生産条件が不利な傾斜のある農地に対して、担い手の育成等による農業生産活動の維持を通じて、中山間地域等における耕作放棄の発生を防止し、多面的機能を確保する。 事業の目的 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) H22まで中山間地域等直接支払制度に取り組んでいる急傾斜農地254ha及び緩傾斜農地119haの耕作放棄防止活動及び多面的機能の増進に伴う活動を継承する。

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 中山間地域の傾斜のある農地43協定(急傾斜254ha、緩傾斜119ha)に対して58,552千円の交付金を支出した。 平成17年度からはじまった5ヶ年事業(第2期対策)の制度。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 中山間地域の傾斜のある農地43協定(急傾斜254ha、緩傾斜119ha)の耕作放棄防止と多面的機能の増進が図られた。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入	
	節	金額(千円)	項目	名称 金額(千円)
	9	12	国庫支出金	
	11	401	府支出金	中山間地域等直接支 44,362
	12	25	起債	
	14	14	分担金・負担金	
	19	58,552	その他	
			一般財源	14,642
事業費合計		59,004	合計	59,004

CHECK					
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">中山間地域等直接支払制度の活用により耕作放棄を防止し、農地の適正な管理ができた。(協定した農地は必ず5年間農地として管理しなければならない制度)</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	中山間地域等直接支払制度の活用により耕作放棄を防止し、農地の適正な管理ができた。(協定した農地は必ず5年間農地として管理しなければならない制度)	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由	中山間地域等直接支払制度の活用により耕作放棄を防止し、農地の適正な管理ができた。(協定した農地は必ず5年間農地として管理しなければならない制度)			
▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)					
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">国の制度であるため、削減の余地はない。(交付割合:国1/2・府1/4・市1/4が国の要綱で定められている)</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	国の制度であるため、削減の余地はない。(交付割合:国1/2・府1/4・市1/4が国の要綱で定められている)	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	国の制度であるため、削減の余地はない。(交付割合:国1/2・府1/4・市1/4が国の要綱で定められている)			
▲ 少し削減の余地があった					
× 削減の余地があった					

ACTION								
改善	事業内容の方向性							
	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 現状維持</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">引き続き、中山間地域等直接支払制度交付金を活用して中山間地域の農地保全をしていく必要がある。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 内容の見直し</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 統廃合・休止・終了</td> </tr> </table>	A	A 現状維持	理由	引き続き、中山間地域等直接支払制度交付金を活用して中山間地域の農地保全をしていく必要がある。		B 内容の見直し	
A	A 現状維持	理由	引き続き、中山間地域等直接支払制度交付金を活用して中山間地域の農地保全をしていく必要がある。					
	B 内容の見直し							
	C 統廃合・休止・終了							
改善	事業規模の方向性							
	<table border="1"> <tr> <td>B</td> <td>A 事業拡大</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">過疎・高齢化に伴い農業後継者が減少していることと有害鳥獣による農作物の被害が増加している為、対象農地がある集落には積極的に中山間地域直接支払制度に取り組んでいただき、農業後継者の育成や鳥獣対策の強化をしていただくよう進めていく。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 現状維持</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 事業縮小</td> </tr> </table>	B	A 事業拡大	理由	過疎・高齢化に伴い農業後継者が減少していることと有害鳥獣による農作物の被害が増加している為、対象農地がある集落には積極的に中山間地域直接支払制度に取り組んでいただき、農業後継者の育成や鳥獣対策の強化をしていただくよう進めていく。		B 現状維持	
B	A 事業拡大	理由	過疎・高齢化に伴い農業後継者が減少していることと有害鳥獣による農作物の被害が増加している為、対象農地がある集落には積極的に中山間地域直接支払制度に取り組んでいただき、農業後継者の育成や鳥獣対策の強化をしていただくよう進めていく。					
	B 現状維持							
	C 事業縮小							

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-21

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	07	01	01
細事業名		畜産振興事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	岩崎 浩一

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-5 畜産の振興
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 本市における家畜の飼養頭数を増やし、畜産振興に繋げることを目的とし、施設導入に係る経費を補助する。 事業の目的 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 畜産農業を営む1団体に対し、サイロ5基の導入並びに肥育牛舎1棟の建設に助成を行なった。 ・サイロ5基導入 事業費819,000円(補助率55% 京都府補助409,000円(50%) 市補助40,000円(5%)) ・肥育牛舎1棟の建設 事業費9,975,000円(補助率55% 京都府補助4,987,000円(50%) 市補助498,000円(5%)) *千円未満切捨て
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 家畜の飼養環境を整備し、飼養頭数を増加する環境が整った。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
	19	5,934	国庫支出金		
			府支出金	地域課題対応型ふる	5,396
			起債		
			分担金・負担金		
			その他		
			一般財源		538
事業費合計		5,934	合計		5,934

CHECK					
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">新たに20頭規模の牛舎が設置され、飼料の備蓄もそれに合った規模のものが整備され、今後、飼育農家の経営安定が期待できる。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	新たに20頭規模の牛舎が設置され、飼料の備蓄もそれに合った規模のものが整備され、今後、飼育農家の経営安定が期待できる。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由	新たに20頭規模の牛舎が設置され、飼料の備蓄もそれに合った規模のものが整備され、今後、飼育農家の経営安定が期待できる。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)					
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">コスト削減に向けて事前協議を行い、計画してきた事業であり削減の余地は無かった。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	コスト削減に向けて事前協議を行い、計画してきた事業であり削減の余地は無かった。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	コスト削減に向けて事前協議を行い、計画してきた事業であり削減の余地は無かった。			
▲ 少し削減の余地があった					
× 削減の余地があった					

ACTION					
改善	事業内容の方向性				
	<table border="1"> <tr> <td>A 現状維持</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">本事業は、畜産農家及び組織の経営安定を図るために継続する必要があるが、府として制度自体の見直しもあり、今後検討が必要。</td> </tr> <tr> <td>B 内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>C 統廃合・休止・終了</td> </tr> </table>	A 現状維持	理由	本事業は、畜産農家及び組織の経営安定を図るために継続する必要があるが、府として制度自体の見直しもあり、今後検討が必要。	B 内容の見直し
A 現状維持	理由	本事業は、畜産農家及び組織の経営安定を図るために継続する必要があるが、府として制度自体の見直しもあり、今後検討が必要。			
B 内容の見直し					
C 統廃合・休止・終了					
改善	事業規模の方向性				
	<table border="1"> <tr> <td>A 事業拡大</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">新たな補助制度の整備に合わせ、府とも協議を行い、より効果の高い制度にしていく必要がある。</td> </tr> <tr> <td>B 現状維持</td> </tr> <tr> <td>C 事業縮小</td> </tr> </table>	A 事業拡大	理由	新たな補助制度の整備に合わせ、府とも協議を行い、より効果の高い制度にしていく必要がある。	B 現状維持
A 事業拡大	理由	新たな補助制度の整備に合わせ、府とも協議を行い、より効果の高い制度にしていく必要がある。			
B 現状維持					
C 事業縮小					

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-22

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	02	03	01
細事業名		6次産業創造プロジェクト事務				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	大久保 貴教

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-6 特産品とブランド化の推進
事業の目的 (どのような目的で事業を実施するか)	①丹後産コシヒカリの品質向上、販売価格向上に関すること、②京丹後サワラの地元消費拡大、ブランド化等に関すること、③その他市内農林水産物等の地域資源活用、商工連携、地産地消推進等に関することの3項目に関してプロジェクトチームメンバーで検討・調査・研究を行う。 平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 丹後産コシヒカリのブランド力強化を目指すとともに、安心安全美味しいにこだわって作った有機栽培米を付加価値を付けて販売できる仕組みを作る。また、サワラを地元で消費していただく流通の仕組みを作る。

DO	
平成21年度事業の実績 (何を対象に、何をしたか)	プロジェクトで①丹後産コシヒカリの品質向上、販売価格向上に関すること、②京丹後サワラの地元消費拡大等に関すること、③その他市内農林水産物等の地域資源活用などの3項目に関して検討・調査・研究を行い、年度末に報告書を作成した。また、①の取り組みは、京都吉兆総料理長の徳岡氏も専門委員として参加。平成21年度からトライアル農地「水稻有機栽培実証事業」で1年目の栽培を行い栽培データの収集や収穫したお米の食味などを計り「安全・安心・美味しい」を科学的に示す指標の検討と付加価値を付けて販売する戦略を模索した。
平成21年度事業の効果 (実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入)	丹後産コシヒカリの3年連続特Aの獲得とトライアル農地の取り組みにより、丹後産コシヒカリのブランド化が推進できた。サワラは、日本一漁獲量の影響もあり、市内の小学校、保育所の給食への利用や地元スーパーなどでサワラが販売されるようになった。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入	
	節	金額(千円)	項目	名称 金額(千円)
	1	163	国庫支出金	
	9	279	府支出金	
			起債	
			分担金・負担金	
			その他	
			一般財源	442
事業費合計		442	合計	442

CHECK				
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか			
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由 京丹後市の特産品が全国にPRでき、ブランド化できつつある。今後の特産品の加工にも力を入れていききっかけづくりができています。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由 京丹後市の特産品が全国にPRでき、ブランド化できつつある。今後の特産品の加工にも力を入れていききっかけづくりができています。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由 京丹後市の特産品が全国にPRでき、ブランド化できつつある。今後の特産品の加工にも力を入れていききっかけづくりができています。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)				
× 遅れている(できていない)				
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか			
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由 予算を支出した事業は、丹後産コシヒカリの品質向上・農家の所得向上を目指したトライアル農地事業であり、重点項目を絞って必要最小限の費用で事業を行っている。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由 予算を支出した事業は、丹後産コシヒカリの品質向上・農家の所得向上を目指したトライアル農地事業であり、重点項目を絞って必要最小限の費用で事業を行っている。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由 予算を支出した事業は、丹後産コシヒカリの品質向上・農家の所得向上を目指したトライアル農地事業であり、重点項目を絞って必要最小限の費用で事業を行っている。			
▲ 少し削減の余地があった				
× 削減の余地があった				

ACTION		
改善	事業内容の方向性	
	A 現状維持	理由 平成21年度から平成23年度までの3ヶ年で計画した事業をしっかりと行い、丹後産コシヒカリが高付加価値で売れる仕組みをつくる。
	B 内容の見直し	
	C 統廃合・休止・終了	
	事業規模の方向性	
	C 事業縮小	理由 トライアル農地の3ヶ年事業終了後は、水稻有機栽培の組織化を図り、自立した仕組みづくりを行っていく。

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-23

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	03	03	01
細事業名		パイプハウス整備事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	西村 隆

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-6 特産品とブランド化の推進
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 施設園芸を定着・発展させると共に、府内で最大規模の食料供給基地として共選・共販等により、一定の品質の確保と平準化に努め、京野菜など京都府特産物育成協議会の指定した園芸振興品目による産地の形成に取り組む。 事業の目的 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 京野菜など京都府特産物育成協議会の指定した園芸振興品目による産地を形成する。

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 「京野菜」生産のためにJA京都が導入したパイプハウスに対し、経費の一部を助成した。パイプハウス42棟、灌水装置一式、補助金34,311千円(府1/2、市1/10、事業費57,186千円)
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 導入したパイプハウスにより、市内で水菜を栽培するパイプハウスの面積が18.8haから19.9haに増加した。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
	19	34,311	国庫支出金		
			府支出金	京野菜こだわり産地	28,593
			起債		
			分担金・負担金		
			その他		
			一般財源		5,718
事業費合計		34,311	合計		34,311

CHECK					
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">パイプハウスの設置により、水菜栽培量の増産を可能とした。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	パイプハウスの設置により、水菜栽培量の増産を可能とした。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由	パイプハウスの設置により、水菜栽培量の増産を可能とした。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)					
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">事業実施主体は、資材の購入に当たり、見積り合わせによる最も価格の低い業者によるなど事業費の節減に努めている。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	事業実施主体は、資材の購入に当たり、見積り合わせによる最も価格の低い業者によるなど事業費の節減に努めている。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	事業実施主体は、資材の購入に当たり、見積り合わせによる最も価格の低い業者によるなど事業費の節減に努めている。			
▲ 少し削減の余地があった					
× 削減の余地があった					

ACTION			
改善	事業内容の方向性		
	A 現状維持	理由	京野菜など京都府特産物育成協議会の指定した園芸振興品目による産地の形成に取り組むため、引き続きパイプハウスの設置を進める。
	B 内容の見直し		
	C 統廃合・休止・終了		
	事業規模の方向性		
	B 現状維持	理由	京野菜など京都府特産物育成協議会の指定した園芸振興品目による産地の形成に取り組むため、引き続きパイプハウスの設置を進める。
A 事業拡大			
C 事業縮小			

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-24

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	03	03	02
細事業名		集出荷貯蔵調整機械・施設整備事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	西村 隆

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-6 特産品とブランド化の推進
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 施設園芸を定着・発展させると共に、共選・共販等により品質の平準化に努め、京野菜など京都府特産物育成協議会の指定した園芸振興品目による産地の形成に取り組む。 事業の目的 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 京野菜など京都府特産物育成協議会の指定した園芸振興品目による産地を形成

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 冷蔵庫を導入するJA京都に対し、導入に係る経費の一部を助成した。冷蔵庫1台、補助金1,518千円(府4.5/10、市1/10、事業費2,761千円)
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) ユリ栽培には球根のプレルーティング処理(冷蔵処理)が必要であるが、栽培面積に 応じた冷蔵庫が無かったため、高品質・安定生産が課題となっていたが、今回冷蔵庫を導入したことで、高品質なユリを安定的に栽培することができる。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
	19	1,518	国庫支出金		
			府支出金	京野菜こだわり産地	1,242
			起債		
			分担金・負担金		
			その他		
			一般財源		276
事業費合計		1,518	合計		1,518

CHECK					
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">今回冷蔵庫を導入したことで、高品質なユリを安定的に栽培することができる。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	今回冷蔵庫を導入したことで、高品質なユリを安定的に栽培することができる。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由	今回冷蔵庫を導入したことで、高品質なユリを安定的に栽培することができる。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)					
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">事業主体は、見積り合わせにより最も価格の低い業者に発注するなど経費の節減に努めている。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	事業主体は、見積り合わせにより最も価格の低い業者に発注するなど経費の節減に努めている。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	事業主体は、見積り合わせにより最も価格の低い業者に発注するなど経費の節減に努めている。			
▲ 少し削減の余地があった					
× 削減の余地があった					

ACTION			
改善	事業内容の方向性		
	A 現状維持	理由	京野菜など京都府特産物育成協議会の指定した園芸振興品目による産地の形成に取り組むため、引続き機械施設の設置を進める。
	B 内容の見直し		
	C 統廃合・休止・終了		
	事業規模の方向性		
	B 現状維持	理由	京野菜など京都府特産物育成協議会の指定した園芸振興品目による産地の形成に取り組むため、引続き機械施設の設置を進める。
A 事業拡大			
C 事業縮小			

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-25

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	03	04	01
細事業名		環境低負荷型農業促進対策事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	吉岡 祐樹

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-6 特産品とブランド化の推進 1-7 快適な農村生活環境の創造
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 堆肥及び有機肥料等の利用を通し、地力を維持培養しながら消費者ニーズに沿った安全・安心な農作物の生産と環境低負荷型農業の拡大を図る。 事業の目的 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) (仮称)京丹後市有機農業推進計画に基づき安全安心な農産物の提供と環境保全に努めることとする。
事業の目的	平成26年度事業の効果目標

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 市内の農業者及び農作物生産団体等に対し、堆肥等の購入価格の1/3以内で35件の補助を行った。但し、1農業者は100千円、農業法人等は200千円が上限。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 当事業への取り組みにより、有機農業に取り組む農家の負担軽減を図るとともに消費者へ安全・安心な農産物の供給と地域の環境保全意識の高揚に一定の成果があった。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
	19	2,355	国庫支出金		
			府支出金		
			起債		
			分担金・負担金		
			その他		
			一般財源		2,355
事業費合計		2,355	合計		2,355

CHECK					
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">制度の継続により、徐々に有機・環境低負荷型農業への関心は高まりを見せている。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	制度の継続により、徐々に有機・環境低負荷型農業への関心は高まりを見せている。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由	制度の継続により、徐々に有機・環境低負荷型農業への関心は高まりを見せている。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)					
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">有機・環境低負荷型農業の推進に必要な取り組みであり、削減の余地はなかった。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	有機・環境低負荷型農業の推進に必要な取り組みであり、削減の余地はなかった。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	有機・環境低負荷型農業の推進に必要な取り組みであり、削減の余地はなかった。			
▲ 少し削減の余地があった					
× 削減の余地があった					

ACTION								
改善	事業内容の方向性							
	<table border="1"> <tr> <td>C</td> <td>A 現状維持</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">環境低負荷型農業促進事業と地域環境保全型農業推進事業を統合し、平成22年度より、地域循環型農業支援事業に一本化する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 内容の見直し</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 統廃合・休止・終了</td> </tr> </table>	C	A 現状維持	理由	環境低負荷型農業促進事業と地域環境保全型農業推進事業を統合し、平成22年度より、地域循環型農業支援事業に一本化する。		B 内容の見直し	
C	A 現状維持	理由	環境低負荷型農業促進事業と地域環境保全型農業推進事業を統合し、平成22年度より、地域循環型農業支援事業に一本化する。					
	B 内容の見直し							
	C 統廃合・休止・終了							
改善	事業規模の方向性							
	<table border="1"> <tr> <td>B</td> <td>A 事業拡大</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">平成22年度より、これまでの2事業を一本化するが、引き続き普及拡大に向けた取り組みを継続する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 現状維持</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 事業縮小</td> </tr> </table>	B	A 事業拡大	理由	平成22年度より、これまでの2事業を一本化するが、引き続き普及拡大に向けた取り組みを継続する。		B 現状維持	
B	A 事業拡大	理由	平成22年度より、これまでの2事業を一本化するが、引き続き普及拡大に向けた取り組みを継続する。					
	B 現状維持							
	C 事業縮小							

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-26

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	03	04	01
細事業名		地域環境保全型農業推進事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	吉岡 祐樹

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-6 特産品とブランド化の推進 1-7 快適な農村生活環境の創造
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 生分解性マルチフィルムの利用により、環境に配慮した営農活動を推進し、農業現場における環境保全意識の高揚を図る。 事業の目的 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) ポリフィルム等から生分解性マルチフィルム等への転換を図り、農業現場における環境保全を推進する。
平成26年度事業の効果目標	

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 市内の農地で販売を目的に農業を営む農業者に対し、生分解性マルチフィルム(※)の購入価格の1/4以内で23件の補助を行った。但し、1農業者、1農業法人等につき200千円が上限。(※)微生物により、二酸化炭素、水および無機塩などに自然分解されるマルチフィルムで、収穫後のマルチ除去作業軽減化(省力化)、使用済みマルチ廃棄量の減量等に有効。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 3年間の本事業により、野菜、黒大豆農家を中心に生分解性マルチフィルムの利用が普及しつつある。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
	19	1,495	国庫支出金		
			府支出金		
			起債		
			分担金・負担金		
			その他		
			一般財源		1,495
事業費合計		1,495	合計		1,495

CHECK					
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">農家全体からすると取組み数はまだまだ少ないが、取組み件数は微増している(H19/19件→H21/23件)。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	農家全体からすると取組み数はまだまだ少ないが、取組み件数は微増している(H19/19件→H21/23件)。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由	農家全体からすると取組み数はまだまだ少ないが、取組み件数は微増している(H19/19件→H21/23件)。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)					
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">生分解性マルチフィルムの価格は高額であり、普及推進のために削減の余地がなかった。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	生分解性マルチフィルムの価格は高額であり、普及推進のために削減の余地がなかった。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	生分解性マルチフィルムの価格は高額であり、普及推進のために削減の余地がなかった。			
▲ 少し削減の余地があった					
× 削減の余地があった					

ACTION								
改善	事業内容の方向性							
	<table border="1"> <tr> <td>C</td> <td>A 現状維持</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">環境低負荷型農業促進事業と地域環境保全型農業推進事業を統合し、平成22年度より、地域循環型農業支援事業に一本化する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 内容の見直し</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 統廃合・休止・終了</td> </tr> </table>	C	A 現状維持	理由	環境低負荷型農業促進事業と地域環境保全型農業推進事業を統合し、平成22年度より、地域循環型農業支援事業に一本化する。		B 内容の見直し	
C	A 現状維持	理由	環境低負荷型農業促進事業と地域環境保全型農業推進事業を統合し、平成22年度より、地域循環型農業支援事業に一本化する。					
	B 内容の見直し							
	C 統廃合・休止・終了							
改善	事業規模の方向性							
	<table border="1"> <tr> <td>B</td> <td>A 事業拡大</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">平成22年度より、これまでの2事業を一本化するが、引き続き普及拡大に向けた取組みを継続する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 現状維持</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 事業縮小</td> </tr> </table>	B	A 事業拡大	理由	平成22年度より、これまでの2事業を一本化するが、引き続き普及拡大に向けた取組みを継続する。		B 現状維持	
B	A 事業拡大	理由	平成22年度より、これまでの2事業を一本化するが、引き続き普及拡大に向けた取組みを継続する。					
	B 現状維持							
	C 事業縮小							

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-27

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	08	01	01
細事業名		アグリセンター管理運営事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	小西 宏和

<b>PLAN</b>							
総合計画 (前期基本計画)	<table border="1"> <tr> <td>基本方針 (政策)</td> <td>I 交流経済都市</td> </tr> <tr> <td>計画項目 (施策)</td> <td>② 農林業の振興</td> </tr> <tr> <td>施策方針</td> <td>1-7 快適な農村生活環境の創造</td> </tr> </table>	基本方針 (政策)	I 交流経済都市	計画項目 (施策)	② 農林業の振興	施策方針	1-7 快適な農村生活環境の創造
基本方針 (政策)	I 交流経済都市						
計画項目 (施策)	② 農林業の振興						
施策方針	1-7 快適な農村生活環境の創造						
事業の目的	<p>(どのような目的で事業を実施するか) 農業の振興はもとより、村づくりやふるさとづくり運動の拠点として整備された本施設であるが、今後も農業・農村の活性化を進めるための人づくりを柱とした各地区の取り組みの拠点として、また人材交流・社会教育の場としても有効に活用する。</p> <p>平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)</p> <p>年間利用人数 40,000人 年間ホール使用イベント回数 170回 歳出に占める一般財源の割合 65.7%</p>						

<b>DO</b>	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 市民の方々が快適に施設を利用できるよう、各種施設・設備の保守点検等を実施した。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入)
	年間利用人数 33,251人 年間ホール使用イベント回数 145回 歳出に占める一般財源の割合 78.1%

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
予算科目	11	3,688	財源内訳	国庫支出金	
	12	243		府支出金	
	13	2,664		起債	
	14	83		分担金・負担金	
			その他	公有財産使用料 244	
				アグリセンター使用料 1,222	
			一般財源	5,212	
事業費合計		6,678	合計		6,678

<b>CHECK</b>	
評価	<p>目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか</p> <p>○ 進捗している(できている)                  ▲ 少し遅れている(少しできていない)                  × 遅れている(できていない)</p> <p>理由 目的に沿って施設を有効に活用できた。</p>
	<p>効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか</p> <p>○ 削減の余地がなかった                  ▲ 少し削減の余地があった                  × 削減の余地があった</p> <p>理由 安全性を第一に考えるが、エレベータ等各種保守点検業務の頻度等を見直していく必要があると思われる。また、多くの業務について、設立時から同じ業者に委託しており、市内業者の参入を促すこともできていなかった。しかし、消耗品について、一定のコスト削減を図ることができた。</p>

<b>ACTION</b>	
改善	<p>事業内容の方向性</p> <p>A A 現状維持                  B 内容の見直し                  C 統廃合・休止・終了</p> <p>理由 多様な役割を担っており、今後も旧大宮町域はもちろん、全市域にわたって様々な利用方法が考えられるため、今後も引き続き運営を行っていく。</p>
	<p>事業規模の方向性</p> <p>B A 事業拡大                  B 現状維持                  C 事業縮小</p> <p>理由 現在、安全上必要な最低限の修繕を行っているのみであるが、今後もより使いやすい施設となるよう、予算の範囲内で修繕等を行う。</p>

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-28

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	08	02	01
細事業名		農業関連施設管理運営事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	小西 宏和

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-7 快適な農村生活環境の創造 1-8 都市農村交流の推進
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 新規入植者の方が農業を安定的に行うために整備された農家用貸付住宅や、指定管理者制度を導入している4施設の管理運営、さらに地区等で管理している農機具庫等の火災保険料の支払いを行う。 平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 特記なし。

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 一部の農家用貸付住宅について、修繕を行った。 指定管理者制度導入施設について、備品の更新及び施設の修繕を行った。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 施設の快適な利用環境の維持を図った。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
予算科目	11	42	財源内訳	国庫支出金	
	12	168		府支出金	
	14	379		起債	
	18	294		分担金・負担金	
			その他	貸付農家住宅使用料	1,244
			一般財源		-361
事業費合計		883	合計		883

CHECK				
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか			
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由 農家用貸付住宅の入居者へ直接納付書を手渡すなど、入居者との接触を増やすよう努めた結果、入居者の要望等を把握することができた。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由 農家用貸付住宅の入居者へ直接納付書を手渡すなど、入居者との接触を増やすよう努めた結果、入居者の要望等を把握することができた。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由 農家用貸付住宅の入居者へ直接納付書を手渡すなど、入居者との接触を増やすよう努めた結果、入居者の要望等を把握することができた。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)				
× 遅れている(できていない)				
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか			
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由 指定管理者制度を導入している4施設はいずれも指定管理料を支払っておらず、これ以上のコスト削減は不可能であった。 農家用貸付住宅の修繕についても、担当者等が自ら修繕を行う等、コスト削減に努めた。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由 指定管理者制度を導入している4施設はいずれも指定管理料を支払っておらず、これ以上のコスト削減は不可能であった。 農家用貸付住宅の修繕についても、担当者等が自ら修繕を行う等、コスト削減に努めた。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由 指定管理者制度を導入している4施設はいずれも指定管理料を支払っておらず、これ以上のコスト削減は不可能であった。 農家用貸付住宅の修繕についても、担当者等が自ら修繕を行う等、コスト削減に努めた。			
▲ 少し削減の余地があった				
× 削減の余地があった				

ACTION		
改善	事業内容の方向性	
	A 現状維持	理由 指定管理者制度を導入している施設のうち、弥栄都市農村交流実践施設については平成22年度より直営とすることになったが、引き続き運営を行っていく。また、その他の3施設についても指定管理者との連携をこれまで以上に図っていく。
	B 内容の見直し	
	C 統廃合・休止・終了	
	事業規模の方向性	
	B 現状維持	理由 従来から弥栄農家用貸付住宅の修繕料及び火災保険料等、最低限の費用しか計上していないが、今後も同様の予算とする。
A 事業拡大		
C 事業縮小		

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-29

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	10	06	01
細事業名		生活環境基盤整備事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	安井 克弘

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-7 快適な農村生活環境の創造
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 過疎・高齢化集落を含む農村地域の複数集落が連携して設立する「地域連携組織」が策定した「里力再生計画」に基づく生活環境基盤の整備・保全等を支援することにより、農村地域の生活及び生産環境の整備・再生を図る。 平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 地域連携組織が策定する「里力再生計画」に基づき、生活環境基盤の整備・保全を図る。

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 過疎化・高齢化集落を含む複数集落の地域連携組織として、宇川地域、五十河地域で実施。 【五十河地域】側溝修繕、外灯修繕、アスファルト舗装等 【宇川地域】都市農村交流施設整備、防災拠点施設整備、水道施設整備、側溝修繕等
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 地域在住者の生活環境改善及び大雨等による災害時の安心・安全の確保が図られた。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入	
	節	金額(千円)	項目	名称 金額(千円)
財源内訳	13	25	国庫支出金	
	14	9	府支出金	共に育む命の里事業 52,600
	15	11,449	起債	
	16	16	分担金・負担金	
	19	60,013	その他	
事業費合計		71,512	合計	71,512

CHECK					
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">平成21年度において、地域から要望のあった生活基盤整備について、滞りなく事業を実施した。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	平成21年度において、地域から要望のあった生活基盤整備について、滞りなく事業を実施した。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由	平成21年度において、地域から要望のあった生活基盤整備について、滞りなく事業を実施した。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)					
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">地元直営工事、地元発注を基本とし、市が対応する必要がある場合は、入札等によって費用の削減に努めた。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	地元直営工事、地元発注を基本とし、市が対応する必要がある場合は、入札等によって費用の削減に努めた。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	地元直営工事、地元発注を基本とし、市が対応する必要がある場合は、入札等によって費用の削減に努めた。			
▲ 少し削減の余地があった					
× 削減の余地があった					

ACTION								
改善	事業内容の方向性							
	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 現状維持</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">過疎化・高齢化対策のため、生活環境基盤の整備等の事業を引き続き実施していく必要がある。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 内容の見直し</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 統廃合・休止・終了</td> </tr> </table>	A	A 現状維持	理由	過疎化・高齢化対策のため、生活環境基盤の整備等の事業を引き続き実施していく必要がある。		B 内容の見直し	
A	A 現状維持	理由	過疎化・高齢化対策のため、生活環境基盤の整備等の事業を引き続き実施していく必要がある。					
	B 内容の見直し							
	C 統廃合・休止・終了							
改善	事業規模の方向性							
	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 事業拡大</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">市内の過疎化・高齢化集落の増加が見込まれるため、生活環境基盤整備等を支援し、過疎化・高齢化対策を実施することで農村地域の再生を図る。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 現状維持</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 事業縮小</td> </tr> </table>	A	A 事業拡大	理由	市内の過疎化・高齢化集落の増加が見込まれるため、生活環境基盤整備等を支援し、過疎化・高齢化対策を実施することで農村地域の再生を図る。		B 現状維持	
A	A 事業拡大	理由	市内の過疎化・高齢化集落の増加が見込まれるため、生活環境基盤整備等を支援し、過疎化・高齢化対策を実施することで農村地域の再生を図る。					
	B 現状維持							
	C 事業縮小							

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-34

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	03	06	01
細事業名		元気な農村地域づくり事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	田家 正弘

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-8 都市農村交流の推進
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 地域農林水産物の展示・直販による販路開拓及び地産地消を啓発する地域農業イベントを支援する。また、農業団体等の市外(都市)での自主的な農産物の販売・宣伝活動等への出店を推奨し、域外販売を推進する。 事業の目的 (平成26年度事業の効果目標) (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 販路拡大や地産地消・地産都消を図る。

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 都市住民を対象にした京都府農林水産フェスティバル、摂津市農業祭へ参加し、市外で農産物や地域物産のPRを行う農業団体等に、その出店に係る交通費や運搬車両経費に対し、補助金の交付を行った。 【イベント入込人数 約42,000人 市外販路開拓活動団体参加数 11団体】
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 京丹後市内産の農産物や加工品の販売とPRIにつなげることができた。 摂津市農業祭出展: 2団体、農林水産フェスティバル出展: 9団体。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
事業費合計	9	17	財源内訳	国庫支出金	
	14	1		府支出金	
	19	217		起債	
				分担金・負担金	
			その他		
			一般財源	235	
事業費合計		235	合計		235

CHECK								
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか							
	<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">京都市と摂津市の2会場で行われたイベントであるが、市外へ向けた販路開拓の活動を行う団体数が増加している。</td> </tr> <tr> <td>▲</td> <td>少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○	進捗している(できている)	理由	京都市と摂津市の2会場で行われたイベントであるが、市外へ向けた販路開拓の活動を行う団体数が増加している。	▲	少し遅れている(少しできていない)	×
○	進捗している(できている)	理由	京都市と摂津市の2会場で行われたイベントであるが、市外へ向けた販路開拓の活動を行う団体数が増加している。					
▲	少し遅れている(少しできていない)							
×	遅れている(できていない)							
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか							
	<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">農林水産物生産者や加工品のPRや販路拡大を目的に都市でのイベントに参加をする団体等への助成で、人件費を除いた事業費の1/2以下の補助率であり、必要最低限の助成にとどまっている。</td> </tr> <tr> <td>▲</td> <td>少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>削減の余地があった</td> </tr> </table>	○	削減の余地がなかった	理由	農林水産物生産者や加工品のPRや販路拡大を目的に都市でのイベントに参加をする団体等への助成で、人件費を除いた事業費の1/2以下の補助率であり、必要最低限の助成にとどまっている。	▲	少し削減の余地があった	×
○	削減の余地がなかった	理由	農林水産物生産者や加工品のPRや販路拡大を目的に都市でのイベントに参加をする団体等への助成で、人件費を除いた事業費の1/2以下の補助率であり、必要最低限の助成にとどまっている。					
▲	少し削減の余地があった							
×	削減の余地があった							

ACTION			
改善	事業内容の方向性		
	A 現状維持	理由	地域農林水産物の展示・直販による販路開拓及び地産地消を啓発する地域農業イベントを支援し、農業団体等の市内外での自主的な農産物の販売・宣伝活動等への出展を推奨し、域外販売を推進するためにも現状維持は必要である。
	B 内容の見直し		
	C 統廃合・休止・終了		
	事業規模の方向性		
	B 現状維持	理由	農産物生産者により組織された団体が域外で多くの消費者と対面販売・宣伝できる場であり、また、市内においては、地域の特徴を活かしたイベントとして定着しており、地域活性化と農林水産物への住民の理解を深めるためにも現状を維持する必要がある。
A 事業拡大			
C 事業縮小			

平成22年度 事務事業評価

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	03	07	01
細事業名		都市農村交流推進事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	田家 正弘

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-8 都市農村交流の推進
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 農山漁村の魅力を活かし、都市のニーズを踏まえて農林水産物をPRし、農山漁村に関心を深める活動を行うことで、地域経済の活性化に繋げる。 事業の目的 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 平成21年度で事業終了。

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) (財)丹後あじわいの郷が実施する「ワインオーナー制度」や都市部でのイベント等でPR活動を実施する取組等に対し、補助金の交付を行った。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) ワインオーナー制度の実施や都市でのPR活動、地元旅館等への普及宣伝ができた。ワインオーナー制度の実施により、298名が新たにワインオーナーとなり、あじわいの郷の入り込み客数は前年比約7,900人増となった。総数94,350人来場。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入	
	節	金額(千円)	項目	金額(千円)
	19	1,500	国庫支出金	
			府支出金	ふるさと交流推進事業 1,500
			起債	
			分担金・負担金	
			その他	
			一般財源	
事業費合計		1,500	合計	1,500

CHECK					
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">平成21年11月に開催された京都府農林水産フェスティバルでは入り込み客数が42,000人にのぼり、そのイベントに出店したことによりワインを介した都市住民との交流が図れた。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	平成21年11月に開催された京都府農林水産フェスティバルでは入り込み客数が42,000人にのぼり、そのイベントに出店したことによりワインを介した都市住民との交流が図れた。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由	平成21年11月に開催された京都府農林水産フェスティバルでは入り込み客数が42,000人にのぼり、そのイベントに出店したことによりワインを介した都市住民との交流が図れた。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)					
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">府補助金「地域課題対応型ふるさと交流推進事業補助金」の定額補助であるため。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	府補助金「地域課題対応型ふるさと交流推進事業補助金」の定額補助であるため。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	府補助金「地域課題対応型ふるさと交流推進事業補助金」の定額補助であるため。			
▲ 少し削減の余地があった					
× 削減の余地があった					

ACTION								
改善	事業内容の方向性							
	<table border="1"> <tr> <td>C</td> <td>A 現状維持</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">平成21年度で事業終了した為。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 内容の見直し</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 統廃合・休止・終了</td> </tr> </table>	C	A 現状維持	理由	平成21年度で事業終了した為。		B 内容の見直し	
C	A 現状維持	理由	平成21年度で事業終了した為。					
	B 内容の見直し							
	C 統廃合・休止・終了							
改善	事業規模の方向性							
	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>A 事業拡大</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 現状維持</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 事業縮小</td> </tr> </table>		A 事業拡大	理由			B 現状維持	
	A 事業拡大	理由						
	B 現状維持							
	C 事業縮小							

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-36

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	03	07	02
細事業名	農村コミュニティ再生・活性化事業					

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	安井克弘

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-8 都市農村交流の推進
事業の目的	<p>(どのような目的で事業を実施するか) クリーンツーリズムなどに着目し、NPO法人日本都市農村交流ネットワーク協会が本市をフィールドとして行う都市農村交流事業に係る費用の一部を助成することにより、地域住民に対し地域や周辺環境の魅力の気づきの場を提供し、農家漁家民宿や農村コミュニティ・ビジネスによる農山漁村の活性化を図る。</p> <p>平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 京丹後市内の体験メニューのブラッシュアップや人材育成を行う。また、農家漁家民宿の開業者数を増やし子ども農山漁村交流プロジェクトの受入れ態勢の整備を図る。</p>

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) NPO法人日本都市農村交流ネットワーク協会が行った久美浜町尉ヶ畑における田植え体験などのグリーン・ツーリズムで都市と農村の交流を推進した。また、有害鳥獣で捕獲した猪・鹿肉を活用した「わが家で楽しむジビエ料理、田舎へ行くガイドブック」の作成などについて支援を行った。京丹後市農山漁村体験型旅行協議会が京丹後市民を対象に農家漁家民宿を開業する際の参考となる手引きを作成し、農家民宿に関する知識を深めるための農家民宿泊セミナーでの助言等を行った。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 市民に対して地域や周辺環境の魅力に気づく機会を提供した。 着地型観光や滞在型観光の重要性を認識できた。3戸の農家民宿が開業した。 農家漁家民宿を開業しようとする人の心構えなど一定の方針を示すことができた。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
予算科目	9	71	財源内訳	国庫支出金	
	14	5		府支出金	
	19	1,500		起債	
		分担金・負担金			
		その他			
			一般財源	1,576	
事業費合計		1,576	合計		1,576

CHECK	
評価	<p>目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか</p> <p>▲ 進捗している(できている) ▲ 少し遅れている(少しできていない) × 遅れている(できていない)</p> <p>理由 農家漁家民宿の開業要望の軒数が増加しない。</p>
	<p>効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか</p> <p>○ 削減の余地がなかった ▲ 少し削減の余地があった × 削減の余地があった</p> <p>理由 必要最低限の経費で事業に取り組んだ。</p>

ACTION	
改善	<p>事業内容の方向性</p> <p>B 内容の見直し 理由 農家漁家民宿の開業者を増やす取り組みが必要であり、対象者等に対して説明会を実施する。</p>
	<p>事業規模の方向性</p> <p>A 事業拡大 理由 農家漁家民宿の開業者を増やし、農村漁村の特徴を活用し、都市住民が楽しんで滞在できる取り組みが必要。</p>

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-37

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	03	08	01
細事業名		地産地消取組支援事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	安井 克弘

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-8 都市農村交流の推進 1-6 特産品とブランド化の推進
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 市内で生産・加工された農水産品の合同販売やPRイベント等を支援することで、地域における農林水産業の活性化を図り、地産地消を促進する。 事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 朝市直売マーケットやあじわいの郷「月例祭」との連携による地産地消の推進。

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 京丹後市朝市の会(会員74名)が直営方式で行った朝市直売マーケット開催を支援した。食味ランキングで3年連続 西日本で1箇所であるコシヒカリの産地として「のぼり旗」を作成し、地元・京阪神の米を扱っている店舗等へ配付し消費者への積極的なPRを行った。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) JA峰山支店で朝市直売マーケット「きょうたんご」を開催した。出店者数19店、来場者数3,000人。「のぼり旗」を京阪神を含め500枚作成し、約80店舗に掲出。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
事業費合計	11	890	財源内訳	国庫支出金	
	12	68		府支出金	
	14	20		起債	
				分担金・負担金	
			その他		
			一般財源	978	
事業費合計		978	合計		978

CHECK					
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">朝市直売マーケットの開催により、地場産品をPRできた。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	朝市直売マーケットの開催により、地場産品をPRできた。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由	朝市直売マーケットの開催により、地場産品をPRできた。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)					
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">必要最低限の予算で地産地消の取組を実施した。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	必要最低限の予算で地産地消の取組を実施した。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	必要最低限の予算で地産地消の取組を実施した。			
▲ 少し削減の余地があった					
× 削減の余地があった					

ACTION								
改善	事業内容の方向性							
	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 現状維持</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">引き続き地産地消の取り組み推進とおいしい米の産地であることをPRしていく。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 内容の見直し</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 統廃合・休止・終了</td> </tr> </table>	A	A 現状維持	理由	引き続き地産地消の取り組み推進とおいしい米の産地であることをPRしていく。		B 内容の見直し	
A	A 現状維持	理由	引き続き地産地消の取り組み推進とおいしい米の産地であることをPRしていく。					
	B 内容の見直し							
	C 統廃合・休止・終了							
改善	事業規模の方向性							
	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 事業拡大</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">朝市直売マーケットについては、丹後あじわいの郷との連携により経費の削減を図り、回数を多く実施するなど事業の拡大を図る。おいしい米の産地であることを広域でPRする。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 現状維持</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 事業縮小</td> </tr> </table>	A	A 事業拡大	理由	朝市直売マーケットについては、丹後あじわいの郷との連携により経費の削減を図り、回数を多く実施するなど事業の拡大を図る。おいしい米の産地であることを広域でPRする。		B 現状維持	
A	A 事業拡大	理由	朝市直売マーケットについては、丹後あじわいの郷との連携により経費の削減を図り、回数を多く実施するなど事業の拡大を図る。おいしい米の産地であることを広域でPRする。					
	B 現状維持							
	C 事業縮小							

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-38

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	03	11	01
細事業名		ふるさと共援活動支援事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	安井 克弘

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-8 都市農村交流の推進 1-7 快適な農村生活環境の創造
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 過疎・高齢化の進んだ農村集落と大学や企業、NPO等の協力者で構成する「ふるさと共援組織」が一体となり取組む再生計画、再生活動を支援することで集落の再生を図る。 事業の目的 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 本事業に取り組む集落の数7集落 (平成20年度の事業開始以降、毎年1集落が取り組む)

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 丹後町、久美浜、弥栄町の4集落を対象に大学と連携を図り、集落再生計画の策定や地域の様々な資源を活用した村づくりを行った。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 放置竹林の伐採や間伐を行うとともに、それらを活用した炭焼きやログハウス作りに着手した。 学生との交流を通じて地域の良さを再認識できた。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入	
	節	金額(千円)	項目	金額(千円)
	19	1,500	国庫支出金	
			府支出金	ふるさと共援活動支援 750
			起債	
			分担金・負担金	
			その他	
			一般財源	750
事業費合計		1,500	合計	1,500

CHECK					
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">毎年、1集落以上が事業に取り組んでいる。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	毎年、1集落以上が事業に取り組んでいる。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由	毎年、1集落以上が事業に取り組んでいる。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)					
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">本事業は定額補助である。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	本事業は定額補助である。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	本事業は定額補助である。			
▲ 少し削減の余地があった					
× 削減の余地があった					

ACTION			
改善	事業内容の方向性		
	A 現状維持	理由	過疎・高齢化集落は、年々増加しており、支援の必要性はますます高まっており長期的な視野にたつて支援する必要がある。
	B 内容の見直し		
	C 統廃合・休止・終了		
	事業規模の方向性		
	A 事業拡大	理由	過疎・高齢化集落は、年々増加しており、支援の必要性はますます高まっており長期的な視野にたつて支援する必要がある。
B 現状維持			
C 事業縮小			

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-39

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	03	12	01
細事業名		クラインガルテン整備事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	岡本 有希子

<b>PLAN</b>	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-8 都市農村交流の推進
事業の目的	<p>(どのような目的で事業を実施するか) 短期型の観光から滞在型の観光への転換を目指すとともに、農林漁業の体験等を通して第1次産業への理解を深め、地域住民と都市住民等との質の高い特色のある交流を展開するため、蒲井・旭地域振興計画に基づき、クラインガルテンの施設を整備する。</p> <p>平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 都市住民等(10区画の市民農園利用者)との交流。蒲井・旭地域における雇用の発生と農林水産物の消費拡大、地元資源との連携による相乗効果が期待できる。</p>

<b>DO</b>	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 施設整備に係る用地造成工事や農園付宿泊施設(ラウベ)7棟の建築及び水道施設工事に着手し、開設にむけた施設整備を行った。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 平成23年度の施設開設に向けて工事をすすめた。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入	
	節	金額(千円)	項目	名称 金額(千円)
財源内訳	9	15	国庫支出金	
	11	218	府支出金	新山村振興等農林漁
	13	16,799	起債	クラインガルテン整備事業 22,500
	14	109	分担金・負担金	
	15	50,109	その他	
	22	230		
事業費合計		67,480	一般財源	17,332
			合計	67,480

<b>CHECK</b>	
評価	<p>目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか</p> <p>▲ 進捗している(できている) ▲ 少し遅れている(少しできていない) 理由 工事発注の時期、受注業者の倒産、天候による影響を受けた。 × 遅れている(できていない)</p>
	<p>効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか</p> <p>○ 削減の余地がなかった ▲ 少し削減の余地があった 理由 ラウベ建築工事費等施設全体の整備についてコスト削減に努めた。 × 削減の余地があった</p>

<b>ACTION</b>	
改善	<p>事業内容の方向性</p> <p>A A 現状維持 B 内容の見直し 理由 地域活性化を図るために有効な手段と考えられる。 C 統廃合・休止・終了</p>
	<p>事業規模の方向性</p> <p>B A 事業拡大 B 現状維持 理由 開設に向けて施設を完成させるため現状を維持する必要がある。 C 事業縮小</p>

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-40

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	03	13	01
細事業名		里力再生事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	安井 克弘

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-8 都市農村交流の推進 1-7 快適な農村生活環境の創造
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 過疎・高齢化集落を含む農村地域の複数集落による「集落連携組織」が一体となって取り組む、里力再生計画の策定や活動を支援することにより過疎・高齢化の進んだ農村地域の再生を図る。 事業の目的 (何をしたか) 過疎・高齢化を含む複数集落の地域連携組織として、宇川地域、五十河地域で実施。地域の課題とその解決方法、地域が持続的に発展していくための計画である里力再生計画の策定とその計画に基づく活動を支援した。 事業の効果 (実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 集落の将来像を描く里力再生計画の策定を推進した。
事業の目的	平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 平成21年度事業開始以降、毎年1地域以上が取り組む。本事業に取り組む地域の数6地域

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 過疎・高齢化を含む複数集落の地域連携組織として、宇川地域、五十河地域で実施。地域の課題とその解決方法、地域が持続的に発展していくための計画である里力再生計画の策定とその計画に基づく活動を支援した。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 集落の将来像を描く里力再生計画の策定を推進した。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
	19	3,000	国庫支出金		
			府支出金	里力再生事業費補助	1,500
			起債		
			分担金・負担金		
			その他		
			一般財源		1,500
事業費合計		3,000	合計		3,000

CHECK								
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか							
	<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">平成21年度において、2地域が連携組織を立ち上げ、本事業に取り組んだ。</td> </tr> <tr> <td>▲</td> <td>少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○	進捗している(できている)	理由	平成21年度において、2地域が連携組織を立ち上げ、本事業に取り組んだ。	▲	少し遅れている(少しできていない)	×
○	進捗している(できている)	理由	平成21年度において、2地域が連携組織を立ち上げ、本事業に取り組んだ。					
▲	少し遅れている(少しできていない)							
×	遅れている(できていない)							
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか							
	<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">本事業は定額補助である。</td> </tr> <tr> <td>▲</td> <td>少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>削減の余地があった</td> </tr> </table>	○	削減の余地がなかった	理由	本事業は定額補助である。	▲	少し削減の余地があった	×
○	削減の余地がなかった	理由	本事業は定額補助である。					
▲	少し削減の余地があった							
×	削減の余地があった							

ACTION								
改善	事業内容の方向性							
	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 現状維持</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">過疎・高齢化の進む農村地域の再生を図るため、引き続き事業を実施していく必要がある。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 内容の見直し</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 統廃合・休止・終了</td> </tr> </table>	A	A 現状維持	理由	過疎・高齢化の進む農村地域の再生を図るため、引き続き事業を実施していく必要がある。		B 内容の見直し	
A	A 現状維持	理由	過疎・高齢化の進む農村地域の再生を図るため、引き続き事業を実施していく必要がある。					
	B 内容の見直し							
	C 統廃合・休止・終了							
改善	事業規模の方向性							
	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>A 事業拡大</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">市内の過疎・高齢化集落の増加が見込まれるため、地域活動を支援し農村地域の再生を図る。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B 現状維持</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C 事業縮小</td> </tr> </table>	A	A 事業拡大	理由	市内の過疎・高齢化集落の増加が見込まれるため、地域活動を支援し農村地域の再生を図る。		B 現状維持	
A	A 事業拡大	理由	市内の過疎・高齢化集落の増加が見込まれるため、地域活動を支援し農村地域の再生を図る。					
	B 現状維持							
	C 事業縮小							

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-41

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	02	01	06	01
細事業名		緑のふるさと協力隊事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	田家 正弘

総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策)	I 交流経済都市		
	計画項目 (施策)	② 農林業の振興		
	施策方針	1-8 都市農村交流の推進		
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか)	NPO法人地球緑化センターの「緑のふるさと協力隊員」を受け入れ、協力隊員が住民との交流をとおして地域への理解を深めることで、地域の活性化を図り、また、田舎での経験や体験を活かして都市部で農山村の魅力を発信する。	平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)	緑のふるさと協力隊員を通して地域の活性化と田舎の魅力を発信し、地域の定住促進する。

平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか)	弥栄町野間地区に「緑のふるさと協力隊員」1名を受け入れ、農作業補助、農業公園内作業補助、福祉ボランティア、イベント手伝いなどの活動を通して住民との交流を図り、メディア等を媒体として、農山村地域の魅力を発信した。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入)	受け入れ地域に活力を注入し、地域の活性化と交流が図れた。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
財源内訳	9	45	国庫支出金		
	11	145	府支出金		
	12	15	起債		
	13	872	分担金・負担金		
	14	492	その他		
	19	10			
	22	750	一般財源		2,329
事業費合計		2,329	合計		2,329

評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか		
	○	○ 進捗している(できている)	理由 地域住民との協働により繋がりが深まり、地域の活性化やNPO法人地球緑化センターを介して都市部へ魅力を発信した。
		▲ 少し遅れている(少しできていない)	
		× 遅れている(できていない)	
効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか			
○	○ 削減の余地がなかった	理由 協力隊員派遣諸費用、研修委託料、市内で活動するための必要経費など最低限の予算である。	
	▲ 少し削減の余地があった		
	× 削減の余地があった		

改善	事業内容の方向性		
	C	A 現状維持	理由 林業体験交流事業に統合。協力隊員が地域住民との交流を通して、地域の活性化を図るため、今後も継続して「緑のふるさと協力隊」を受け入れる。
		B 内容の見直し	
		C 統廃合・休止・終了	
	事業規模の方向性		
	B	A 事業拡大	理由 地球緑化センターによる協力隊員の派遣は、他の市町村も毎年1名の受け入れを行っていることから、今後も1名の予定。
B 現状維持			
C 事業縮小			



平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-42

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	02	01	06	02
細事業名		森林ボランティア事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	田家 正弘

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-8 都市農村交流の推進 2-2 森林環境の保全
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) NPO法人地球緑化センターの森林ボランティア事業により、ボランティアを受け入れ、地域との交流をとおり協働による森林整備等を行う。 事業の目的 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 森林ボランティア事業を実施することにより、森林への理解を深め、他地域の住民と地元住民との交流を図る。

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 弥栄町野間地区を活動拠点として、農業者、林業者及び地域住民との交流を通し、協働での林業体験、森林整備活動を行った。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 近畿地方・関東地方より36名(男性18名、女性17名、随同行1名)の参加者があり、間伐作業などの森林整備を行った。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
事業費合計	8	26	財源内訳	国庫支出金	
	9	5		府支出金	
	11	36		起債	
	13	259		分担金・負担金	
			その他		
			一般財源	326	
事業費合計		326	合計		326

CHECK								
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか							
	<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">森林ボランティア活動を通じて、都市部の住民と地域住民との交流が図れ、協働による森林整備ができた。</td> </tr> <tr> <td>▲</td> <td>少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○	進捗している(できている)	理由	森林ボランティア活動を通じて、都市部の住民と地域住民との交流が図れ、協働による森林整備ができた。	▲	少し遅れている(少しできていない)	×
○	進捗している(できている)	理由	森林ボランティア活動を通じて、都市部の住民と地域住民との交流が図れ、協働による森林整備ができた。					
▲	少し遅れている(少しできていない)							
×	遅れている(できていない)							
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか							
	<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">ボランティア参加人数による実費精算。</td> </tr> <tr> <td>▲</td> <td>少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>削減の余地があった</td> </tr> </table>	○	削減の余地がなかった	理由	ボランティア参加人数による実費精算。	▲	少し削減の余地があった	×
○	削減の余地がなかった	理由	ボランティア参加人数による実費精算。					
▲	少し削減の余地があった							
×	削減の余地があった							

ACTION			
改善	事業内容の方向性		
	A 現状維持	理由	林業体験交流事業に統合。 平成21年度までは、NPO法人地球緑化センターからのボランティアを受け入れて事業を行っていたが、平成22年度から市単独でボランティアを募集して事業を実施する。
	C B 内容の見直し		
	C 統廃合・休止・終了		
	事業規模の方向性		
	A 事業拡大	理由	平成21年度は、事業を実施するのに参加者が多すぎたため、平成22年度は10～15名程度の人数で事業を実施する。
C B 現状維持			
C 事業縮小			

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-43

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	03	01	01
細事業名		農業振興地域整備計画策定事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	澤 学 爾

PLAN							
総合計画 (前期基本計画)	<table border="1"> <tr> <td>基本方針 (政策)</td> <td>I 交流経済都市</td> </tr> <tr> <td>計画項目 (施策)</td> <td>② 農林業の振興</td> </tr> <tr> <td>施策方針</td> <td>1-9 足腰の強い農業の基盤づくり</td> </tr> </table>	基本方針 (政策)	I 交流経済都市	計画項目 (施策)	② 農林業の振興	施策方針	1-9 足腰の強い農業の基盤づくり
基本方針 (政策)	I 交流経済都市						
計画項目 (施策)	② 農林業の振興						
施策方針	1-9 足腰の強い農業の基盤づくり						
事業の目的	<table border="1"> <tr> <td>(どのような目的で事業を実施するか)</td> <td>平成18年に策定した「京丹後農業振興地域整備計画」の見直しを行う。</td> <td>平成26年度事業の効果目標</td> <td>(平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)</td> <td>新農業振興地域整備計画による農用地の管理を行う。</td> </tr> </table>	(どのような目的で事業を実施するか)	平成18年に策定した「京丹後農業振興地域整備計画」の見直しを行う。	平成26年度事業の効果目標	(平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)	新農業振興地域整備計画による農用地の管理を行う。	
(どのような目的で事業を実施するか)	平成18年に策定した「京丹後農業振興地域整備計画」の見直しを行う。	平成26年度事業の効果目標	(平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)	新農業振興地域整備計画による農用地の管理を行う。			

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 農業振興地域の整備に関する法律第12条の2第1項の規定に基づく基礎調査業務を業者発注した。(平成22年度へ繰越)
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 特記なし。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
	13	0	国庫支出金		
			府支出金		
			起債		
			分担金・負担金		
			その他		
			一般財源		0
事業費合計		0	合計		0

CHECK						
評価	<p>目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか</p> <table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">平成21年度が、農地法改正及びそれに伴う農振法改正時期と重なり、見直し業務への影響が把握できなかったことにより、基礎調査業務の発注が遅れた。</td> </tr> <tr> <td>× ▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	平成21年度が、農地法改正及びそれに伴う農振法改正時期と重なり、見直し業務への影響が把握できなかったことにより、基礎調査業務の発注が遅れた。	× ▲ 少し遅れている(少しできていない)	× 遅れている(できていない)
	○ 進捗している(できている)	理由			平成21年度が、農地法改正及びそれに伴う農振法改正時期と重なり、見直し業務への影響が把握できなかったことにより、基礎調査業務の発注が遅れた。	
× ▲ 少し遅れている(少しできていない)						
× 遅れている(できていない)						
	<p>効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか</p> <table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">「農業振興地域制度に関する参考様式集について」(構造改善局計画部地域計画課長通知)に基づく様式を基に発注しており、コスト削減の余地はなかった。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	「農業振興地域制度に関する参考様式集について」(構造改善局計画部地域計画課長通知)に基づく様式を基に発注しており、コスト削減の余地はなかった。	▲ 少し削減の余地があった	× 削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	「農業振興地域制度に関する参考様式集について」(構造改善局計画部地域計画課長通知)に基づく様式を基に発注しており、コスト削減の余地はなかった。				
▲ 少し削減の余地があった						
× 削減の余地があった						

ACTION							
改善	事業内容の方向性						
	A	<table border="1"> <tr> <td>A 現状維持</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">平成23年度中の見直し完了を目指す3カ年事業である。</td> </tr> <tr> <td>B 内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>C 統廃合・休止・終了</td> </tr> </table>	A 現状維持	理由	平成23年度中の見直し完了を目指す3カ年事業である。	B 内容の見直し	C 統廃合・休止・終了
	A 現状維持	理由	平成23年度中の見直し完了を目指す3カ年事業である。				
	B 内容の見直し						
	C 統廃合・休止・終了						
	B	事業規模の方向性					
A	事業拡大	理由	予算執行対象は、基礎調査業務の業者発注と、見直し後の計画策定業務の業者発注であるため、事業規模の拡大は想定していない。				
B	現状維持						
C	事業縮小						

平成22年度 事務事業評価

整理番号  
2-44

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	06	01	11	04	02
細事業名		経営体育成促進事業				

担当部局	農林水産環境部
担当課等	農政課
担当課長の氏名	辻田 壽男
担当者の氏名	松本 優

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) I 交流経済都市 計画項目 (施策) ② 農林業の振興 施策方針 1-9 足腰の強い農業の基盤づくり
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 農業生産法人等育成緊急整備事業(森本地区)完了後の適正な農業経営のための営農組織(法人)設立に向けて地区内の合意形成を図るため、土地利用調整、法人設立、経営の視察研修を行う。 事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 農業法人を設立し、平成25年度中に、工事区域の内30haを法人に集積し、安定した農業経営を目指す。

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 農業生産法人設立、土地利用調整に向けて、地区内の合意形成を図るための活動を行った。8回の会議等実施。先進地視察・研修、研修会参加等。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 地区内の合意形成が図られ、農業生産法人設立に向け準備が整った。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
財源内訳	9	350	国庫支出金	経営体育成促進事業	440
	11	32	府支出金	経営体育成促進事業	160
	14	126	起債		
	18	195	分担金・負担金	経営体育成促進事業	100
	19	97	その他		
事業費合計		800	合計		800

CHECK					
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">平成22年度の早い時期に法人設立予定であり、関連して土地利用調整活動も予定通り進捗している。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	○ 進捗している(できている)	理由	平成22年度の早い時期に法人設立予定であり、関連して土地利用調整活動も予定通り進捗している。	▲ 少し遅れている(少しできていない)
○ 進捗している(できている)	理由	平成22年度の早い時期に法人設立予定であり、関連して土地利用調整活動も予定通り進捗している。			
▲ 少し遅れている(少しできていない)					
× 遅れている(できていない)					
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか				
	<table border="1"> <tr> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">農業生産法人設立、土地利用調整活動、先進地視察・研修、研修会参加等定額補助であり、コスト削減の余地はなかった。</td> </tr> <tr> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○ 削減の余地がなかった	理由	農業生産法人設立、土地利用調整活動、先進地視察・研修、研修会参加等定額補助であり、コスト削減の余地はなかった。	▲ 少し削減の余地があった
○ 削減の余地がなかった	理由	農業生産法人設立、土地利用調整活動、先進地視察・研修、研修会参加等定額補助であり、コスト削減の余地はなかった。			
▲ 少し削減の余地があった					
× 削減の余地があった					

ACTION			
改善	事業内容の方向性		
	A 現状維持	理由	法人設立、法人の安定運営に向けた取り組みを継続する。
	B 内容の見直し		
	C 統廃合・休止・終了		
	事業規模の方向性		
	B 現状維持	理由	法人設立、法人の安定運営に向けた取り組みを継続する。
A 事業拡大			
C 事業縮小			